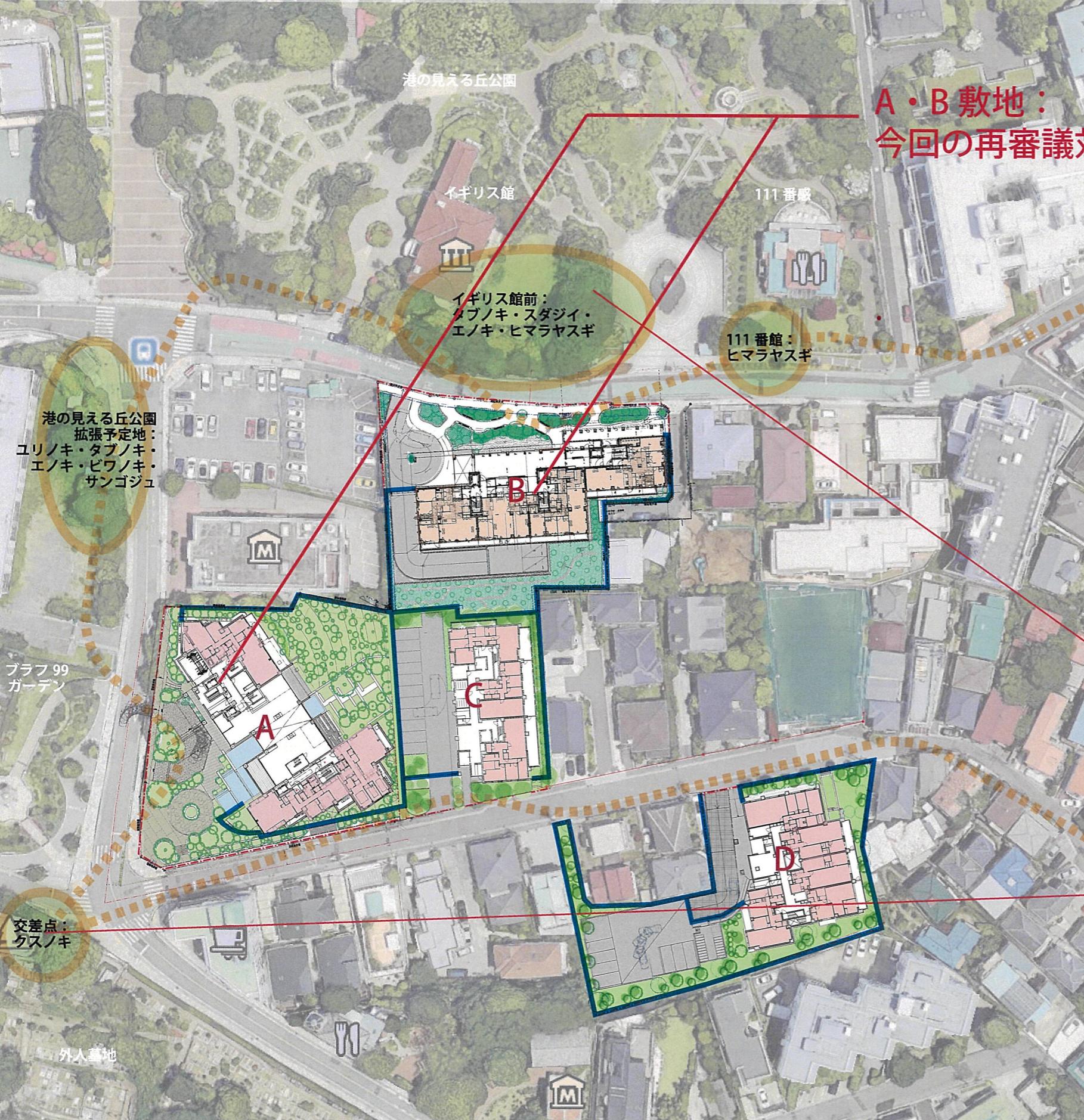


## (仮称) 横浜山手Ⅰ計画 景観形成の考え方

SAKAKURA ASSOCIATES  
architects and engineers

## 景観形成の方針 全体配置図と手法

- ①道路境界からの建物の引き・奥行きを重視し、旧居留地の邸宅のスケール感を継承します。
- ②セキュリティラインを工夫し、歩行者空間の拡張により余裕のある地域景観に寄与します。
- ③周辺の公園等を結ぶように、既存と新植の緑のネットワークを繋ぎます。

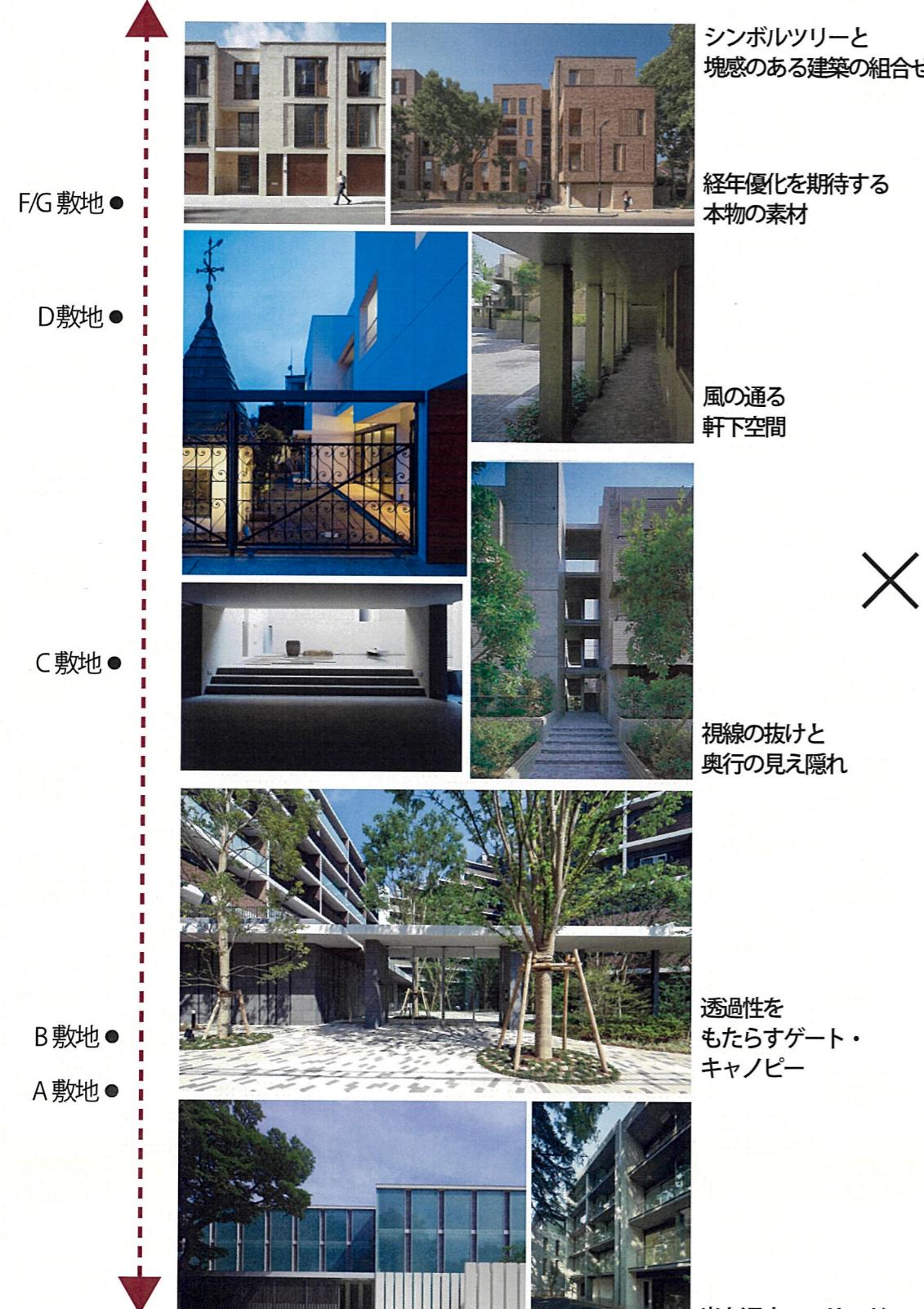


■提案：新築建物のデザインの要素と、敷地毎の特徴付けを明確にします。

街並みスケール：形態

落ち着き・塊感・  
陰影・プライベート

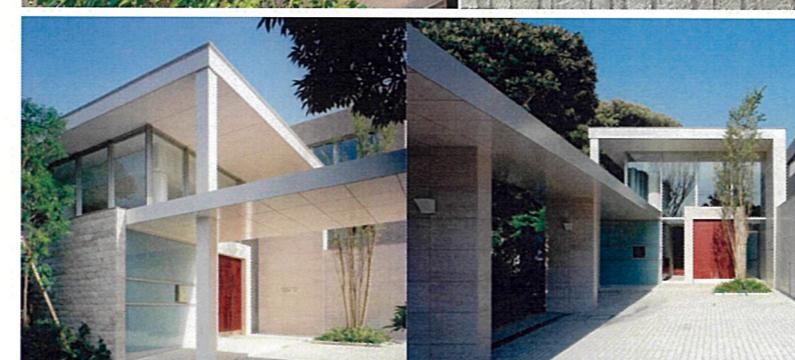
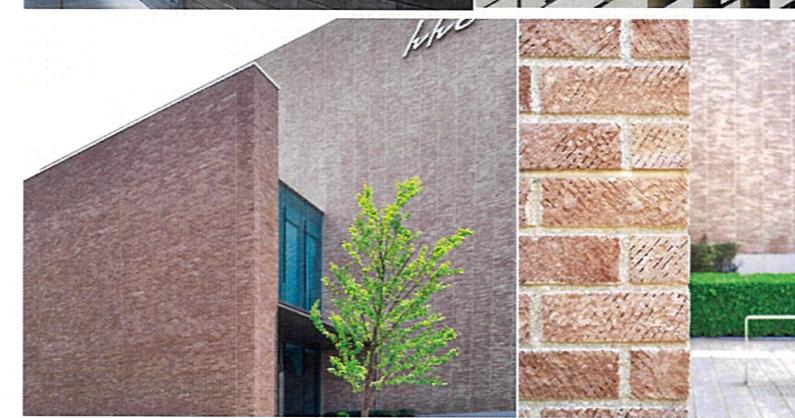
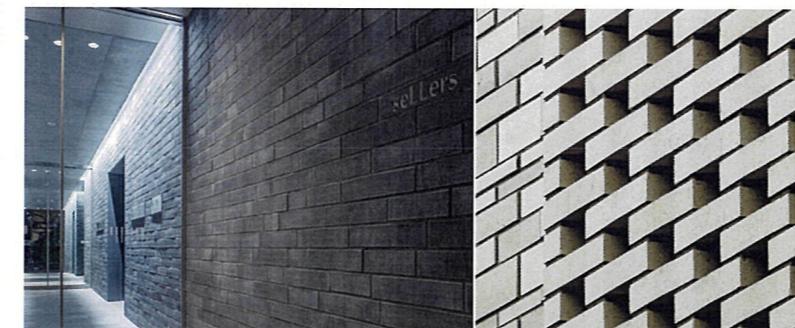
- 敷地毎の立地周辺環境による形態要素



軽快さ・透明感・  
明るさ・パブリック

ヒューマンスケール：素材

- 時代を超えて親しまれるような、肌触りのある外装素材をアクセントとして採用



光を通すファサード

歴史的、土地的要素：モチーフ

- 山手の景観構成要素である石・鉄・水・緑



## 都市美審議会後の今回対応案

## ■今回の変更点：

- ・歩道を拡張するなど、道行く人々の入りやすさを工夫する事。
- ・交差点に面した部分のパブリック性を高める事。
- ・陣屋坂添いの圧迫感を軽減する工夫を行う事。

外構要素をセットバックし、前面道路歩道を拡張しました。  
全体の緑地帯の広さは同等を保っています。



車寄せは北側に寄せ、  
交差点に面した広場の間口を  
より大きく確保します。

既存の  
歩道範囲

新たに遊歩道として  
拡張する範囲

山手本通り越しに  
プラフ99ガーデンを  
眺めるベンチ

外人墓地を眺め  
異国横浜山手の雰囲気を  
感じるベンチ

交差点を見返しながら  
広場内での対話も  
生むベンチ

水景を眺めるベンチ

紅葉と花の  
四季を感じるベンチ

陣屋坂沿いの擁壁について  
高さを70cm下げました。  
また、植栽可能範囲を  
拡張して確保し、  
圧迫感の軽減を行いました。

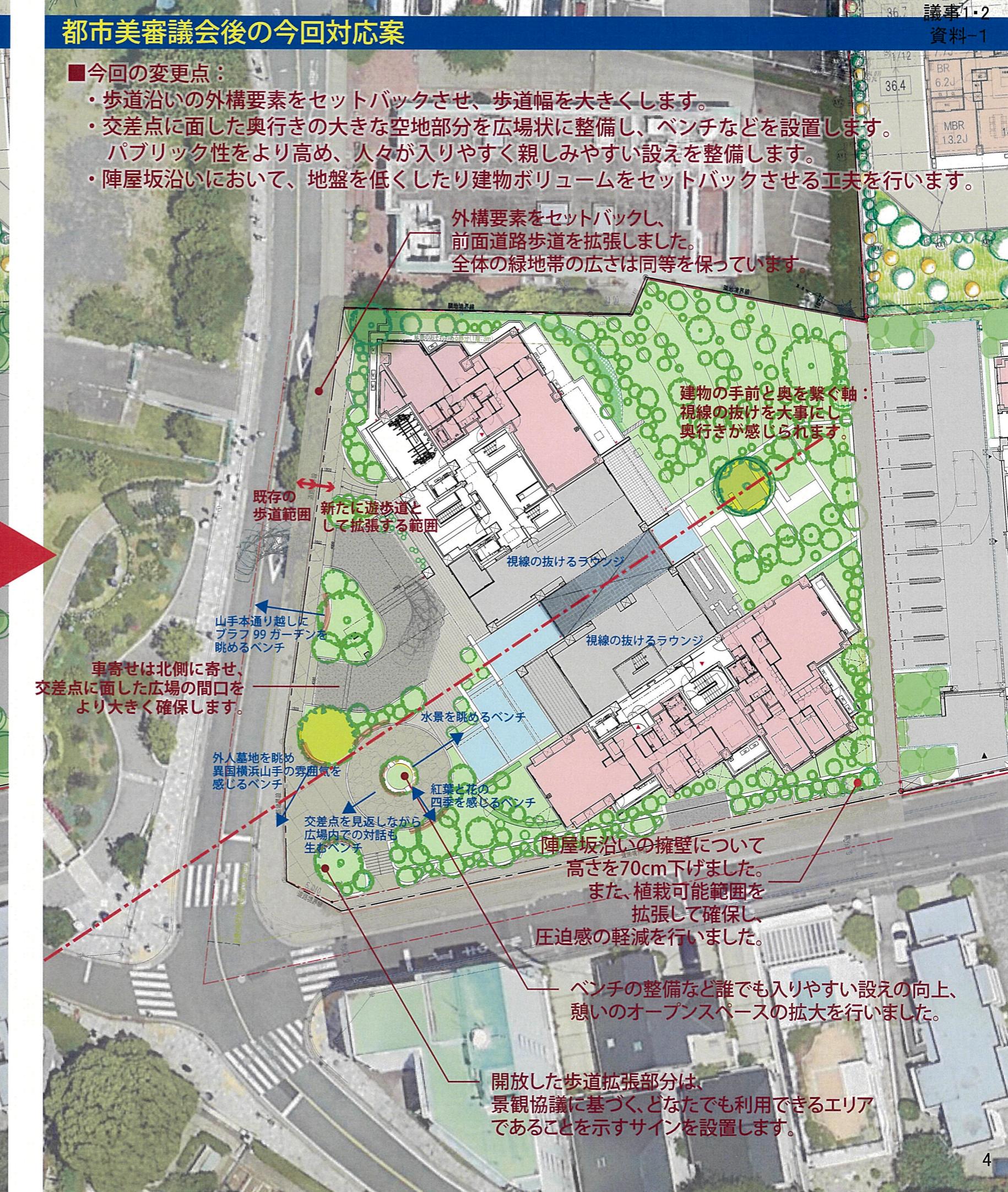
ベンチの整備など誰でも入りやすい設えの向上、  
憩いのオープンスペースの拡大を行いました。

開放した歩道拡張部分は、  
景観協議に基づく、どなたでも利用できるエリア  
であることを示すサインを設置します。

## 景観形成の方針 全体配置：11/22都市美審議会提出時

## ■前回都市美での意見：

- ・歩道を拡張するなど、道行く人々の入りやすさを工夫する事。
- ・交差点に面した部分のパブリック性を高める事。
- ・陣屋坂添いの圧迫感を軽減する工夫を行う事。

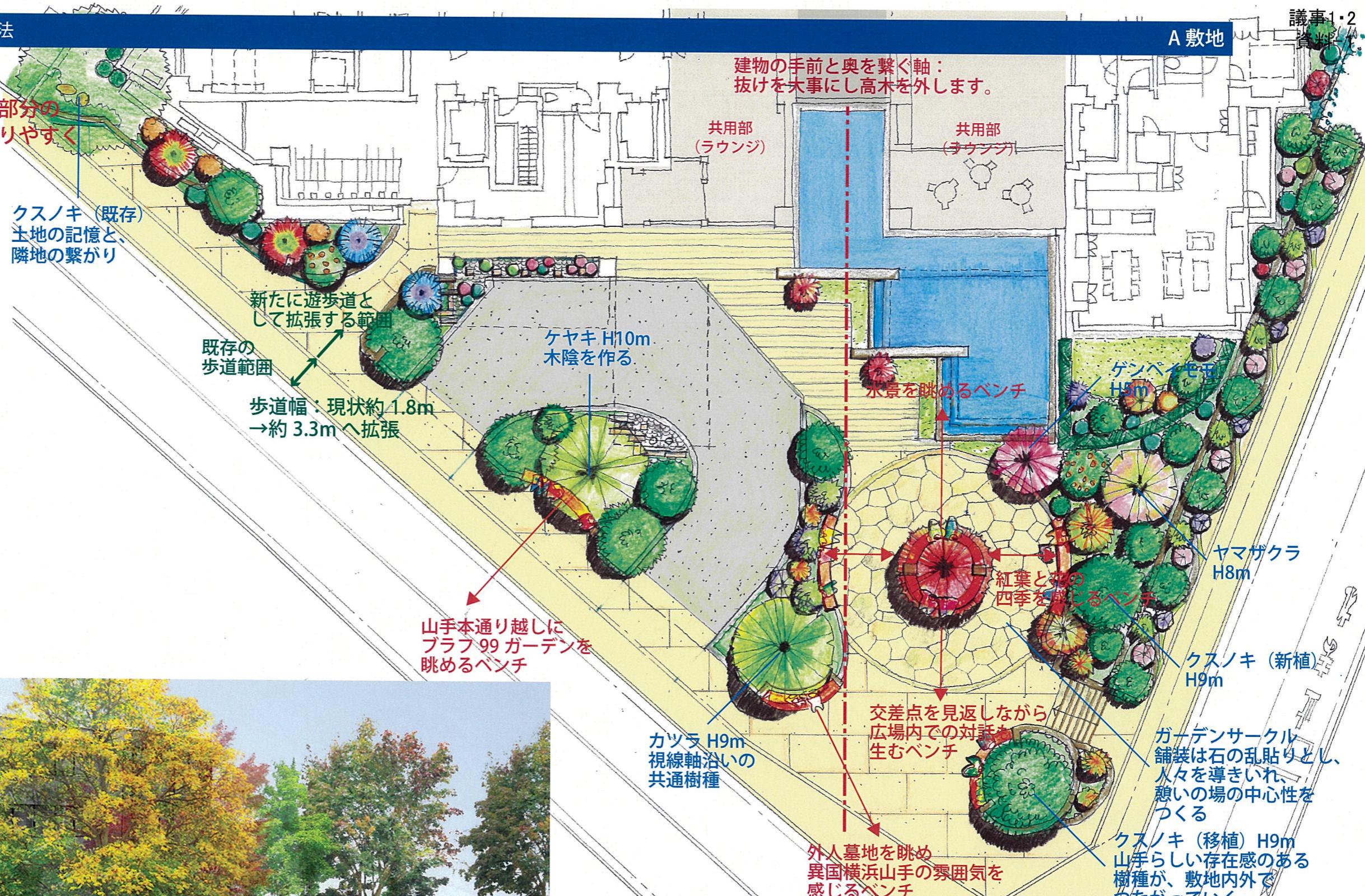


## 景観形成の方針 全体配置図と手法

A 敷地

## ■前回都市美時からの変更点：

交差点に面した奥行きの大きな空地部分のパブリック性をより高め、人々が入りやすく親しみやすい設えを整備します。



前面歩道の舗装敷



敷地内外での近似舗装の使い分け事例(プラフ99)

220215  
原図彩化

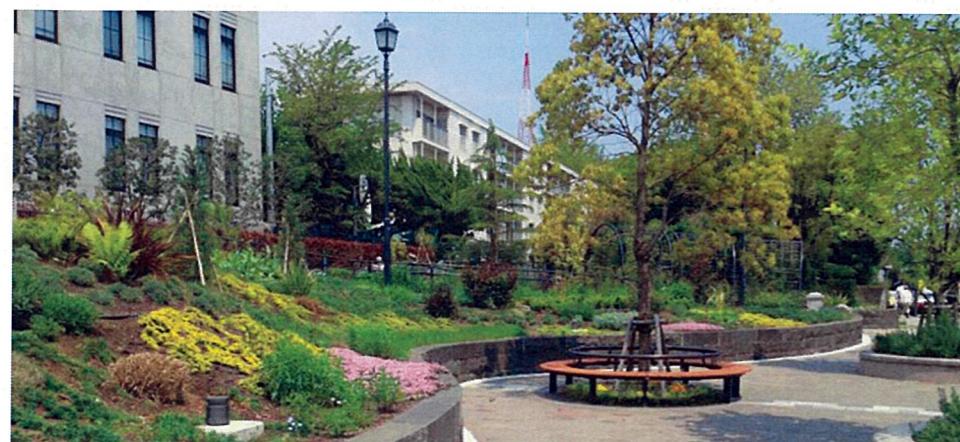
前面道路の舗装敷のテクスチャを尊重します。

敷地境界内のオープンスペース部分は、近似の床仕上げを選定します。

■前回都市美時からの変更点：交差点に面した奥行きの大きな空地部分のパブリック性をより高め、人々が入りやすく親しみやすい設えを整備します。ベンチの整備など誰でも入りやすい設えの向上、憩いのオープンスペースの拡大を行いました。歩道沿いの植栽帯を後退し、歩行者空間を以前より広く確保しました。車寄せは北側に寄せ、交差点に面した広場の間口をより大きく確保します。



山手本通り側：  
プラフ 99 ガーデン交差点側より



プラフ 99 ガーデンに呼応した植栽帯・遊歩道



山手地区の起伏に呼応した外構の石積



元町公園に呼応した水景

■前回都市美時からの変更点：交差点に面した奥行きの大きな空地部分のパブリック性をより高め、人々が入りやすく親しみやすい設えを整備します。ベンチの整備など誰でも入りやすい設えの向上、憩いのオープンスペースの拡大を行いました。外構要素をセットバックし、前面道路歩道を拡張しました。

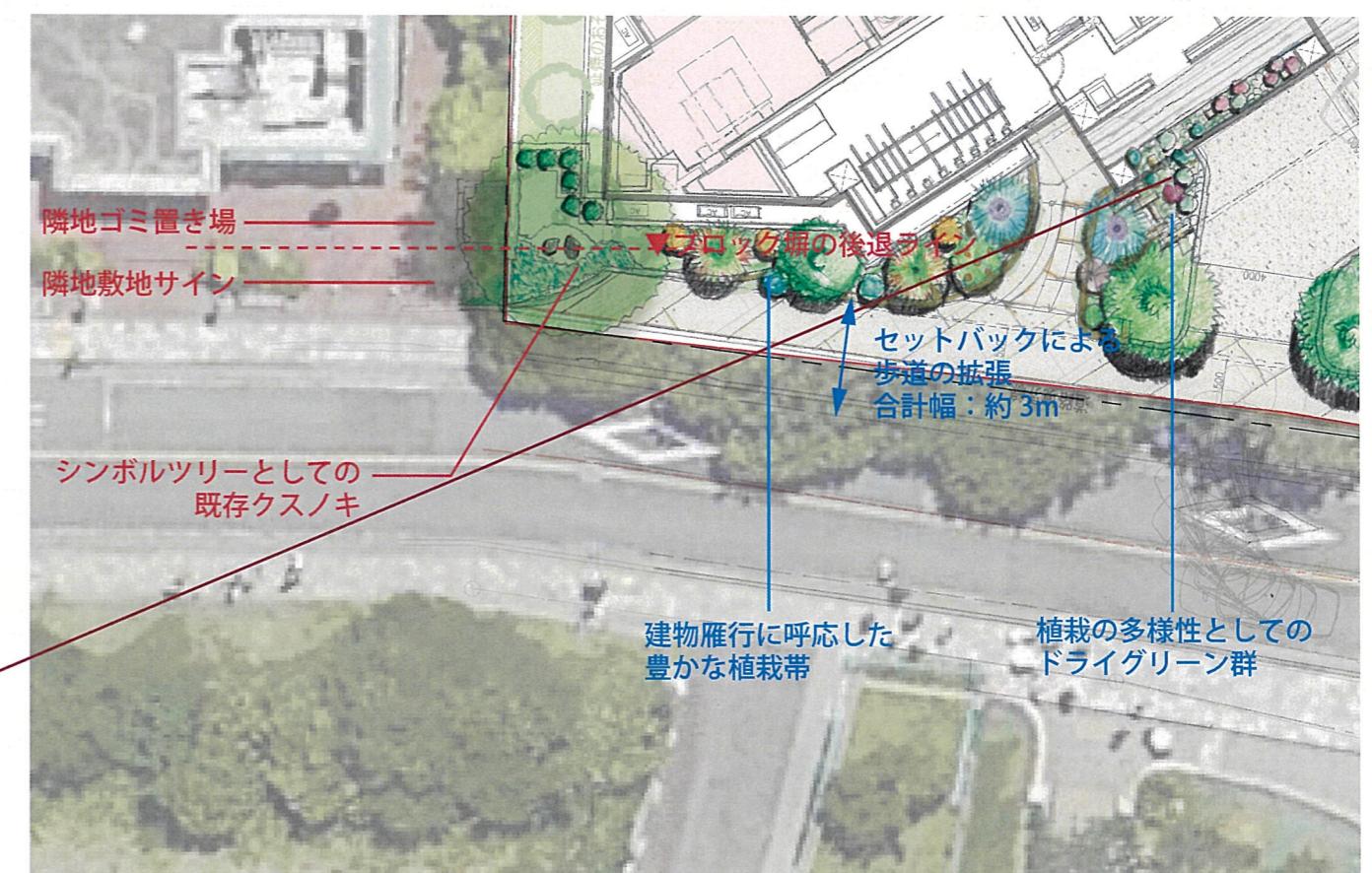
港の見える丘公園側隣地との連続感をもたらす目的で、隣地との境界塀を後退させ、植栽で修景します。

道行く人々にとっての魅力的な景観の一角を形成します。町並み及び壁面に配慮し、隣地建物に接した部分では計画建物の雁行ボリューム端部の角度を隣地と揃えます。

山手本通り側：  
港の見える丘公園側より



事業地から確保できたプラフ積房州石について、  
状態の良いものを A 敷地内で景石として  
再利用します。ドライガーデンとしての  
一角を修景します。

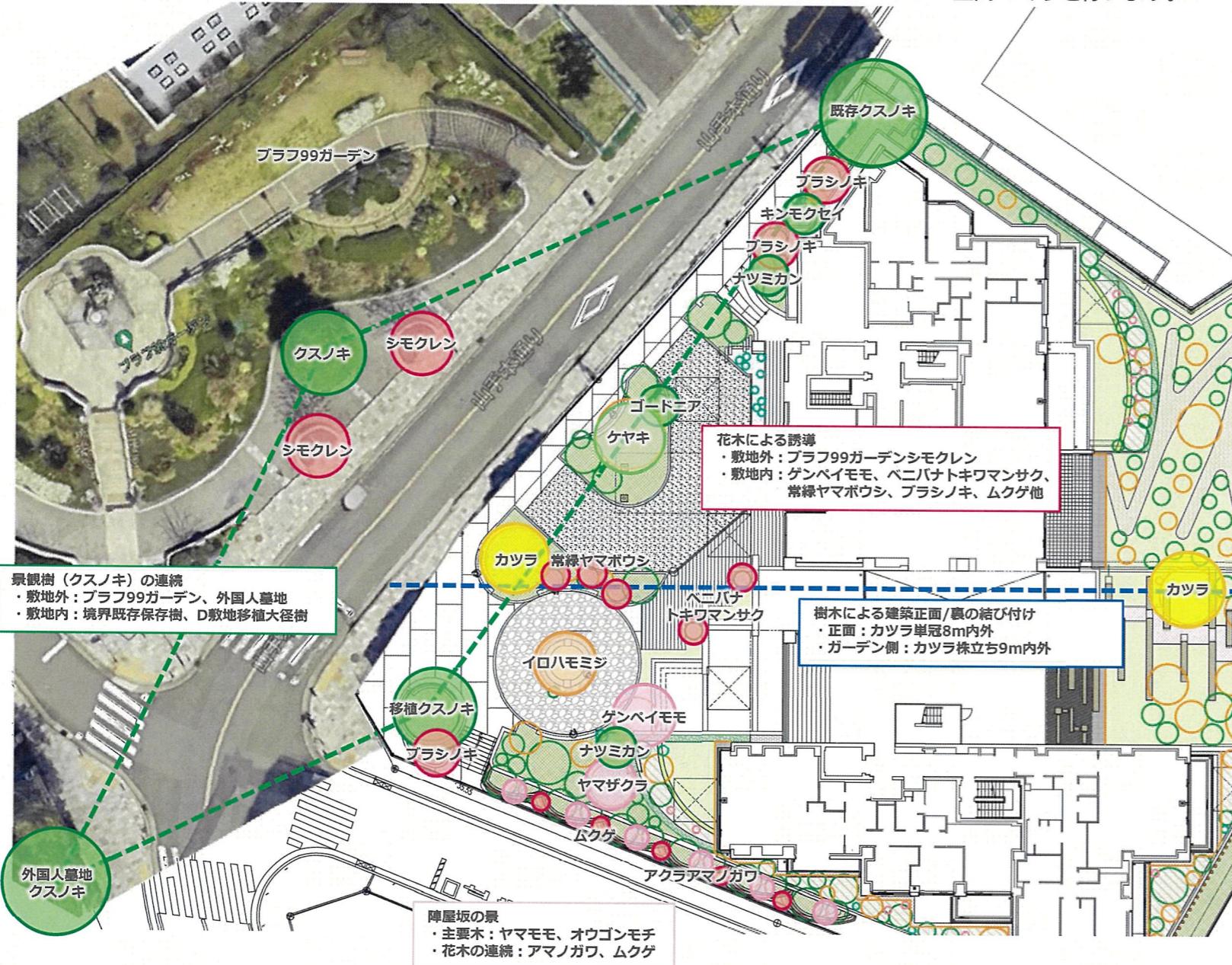


# 景観形成の方針 植栽計画

## 植栽計画

### 近隣景観への融合と敷地内への誘導

プラフ99ガーデンや外国人墓地などの特徴的な樹木を敷地内に取り込み、地域としての景観の融合をはかります。敷地内においても、景観樹や花木を連続させることで、歩行者を誘導し、歩きやすい空間づくりを行います。



### クスノキ 景観木の連続と継承



## 樹木歴

### 春の花と新緑のリレー

早春のプラフ99ガーデンのシモクレンの開花から始まり、サクラやモモの花、カツラの新緑と春のリレーを展開します。



### 初夏～秋の花と紅葉のリレー

初夏のヤマボウシ、ブラシノキの花からムクゲの花、秋のキンモクセイの花と香りやモミジの紅葉と夏～秋のリレーを展開します。



### 景観の連続と冬の景

外国人墓地とプラフ99ガーデンのクスノキと呼応する移植と新植のクスノキを敷地内に植えて、周辺景観との連続性をつくります。また、冬に実がつくナツミカン、花が咲くゴードニア、葉色が美しいドライガーデンプランツにより、冬の景に彩を与えます。



■陣屋坂沿いの高低差は、擁壁のセットバックと多段緑化により修景します。多様な植栽が圧迫感を軽減しつつ、目立たない位置に地下駐車場を設けます。



ナナミ

ムクゲ

アマノガワザクラ

ヤマモモ



鉄平石小端積み

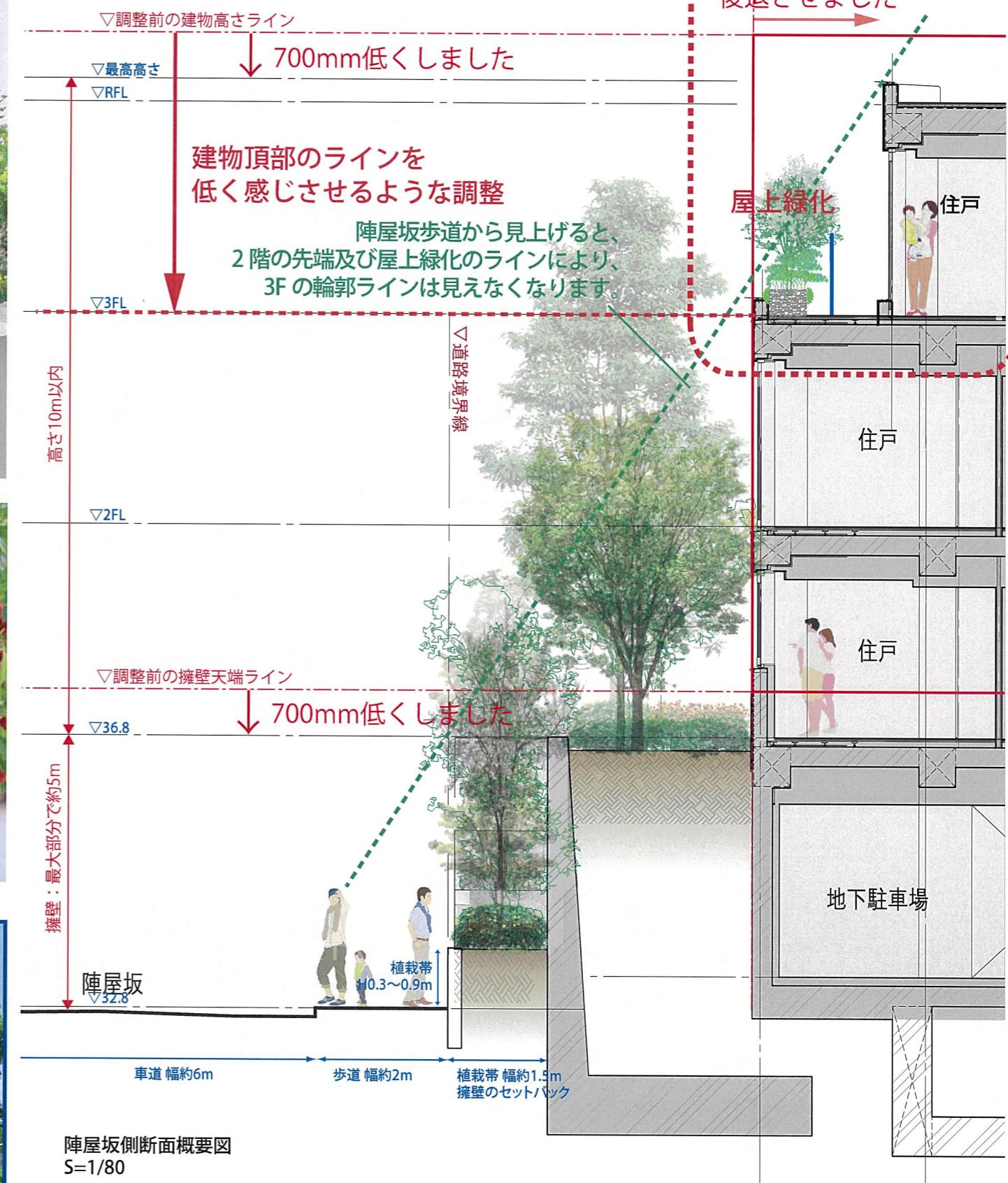


葉張りにより樹冠が連続している事例

### ■変更点：

- 擁壁が最も高くなるポイントに近い建物ブロックでは、3Fの壁面をセットバックさせて屋上緑化を施します。

- 擁壁（宅盤）自体の高さを前回提示時から70cm下げました。また、植栽についても樹冠が繋がるような管理を行い、緑の壁として擁壁の存在感を無くします。

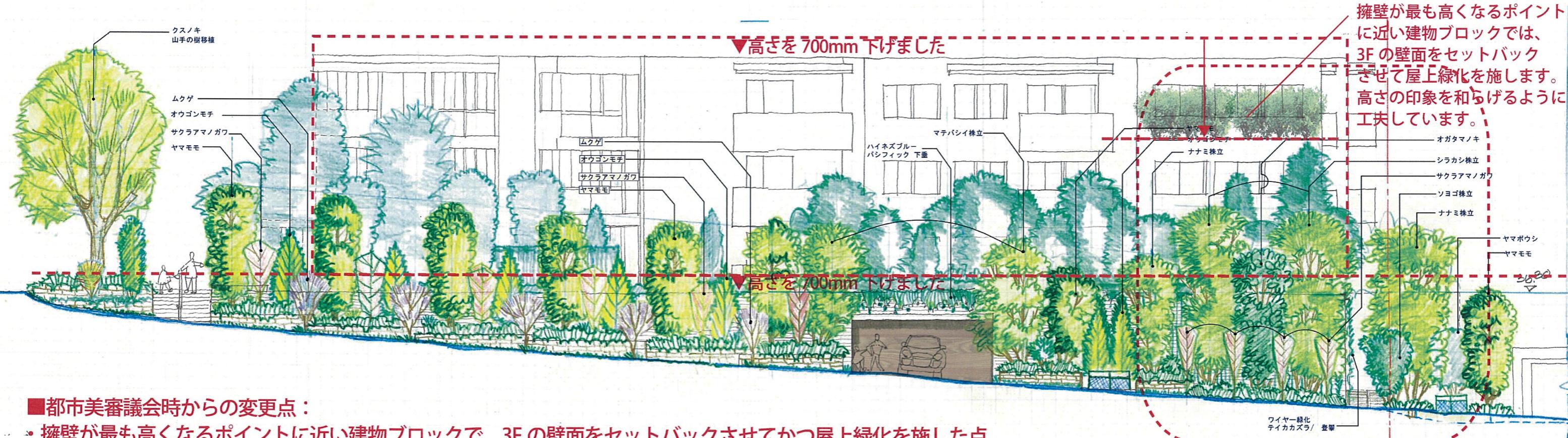


11/28 都市美提示時の案

今回の変更案

**■変更点：**

- 擁壁が最も高くなるポイントに近い建物ブロックでは、3Fの壁面をセットバックさせて屋上緑化を施します。陣屋坂を行き来する人々から、一層分低く感じるように工夫します。
- 擁壁（宅盤）自体の高さを前回提示次から 70cm 下げました。また、植栽についても樹冠が繋がるような管理を行い、緑の壁として擁壁の存在感を無くします。



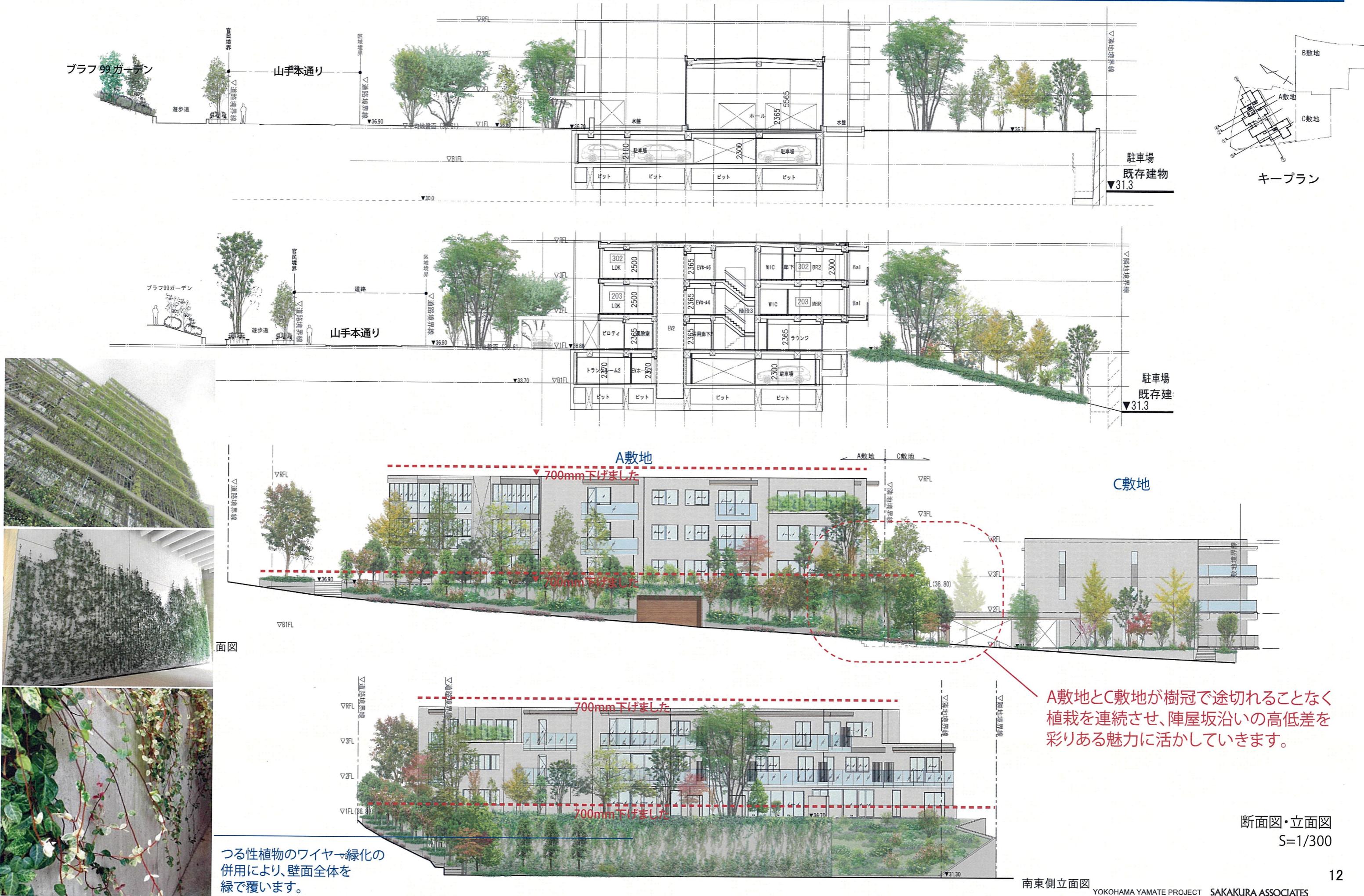
### ■都市美審議会時からの変更点：

- 擁壁が最も高くなるポイントに近い建物ブロックで、3Fの壁面をセットバックさせてかつ屋上緑化を施した点
  - 宅盤全体を、山手本通側前面道路と同レベルまで70cm下げた点
  - C敷地との境界線付近の通路及び植栽計画を見直した点

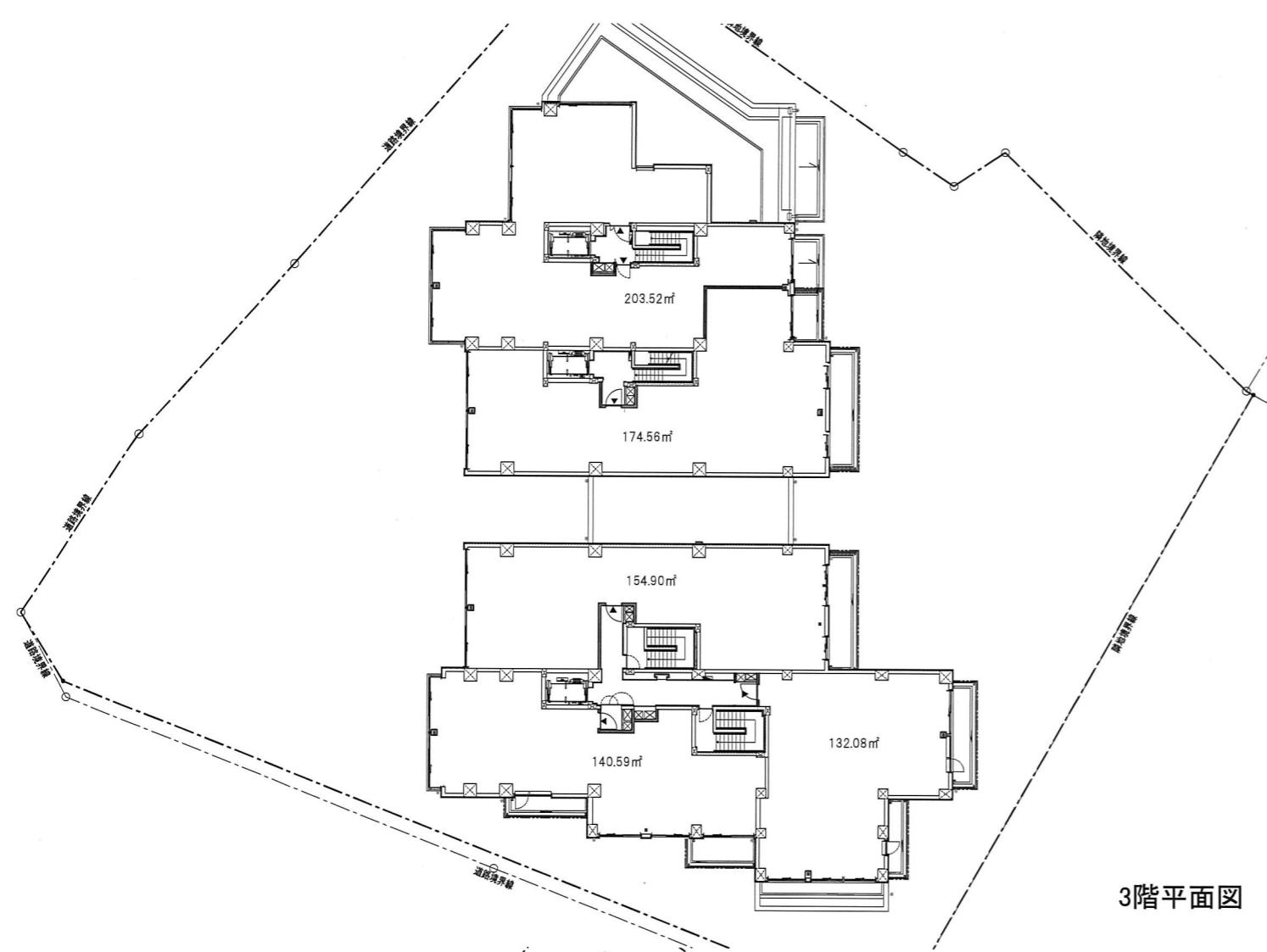
A-C 敷地間の、通路部分のルートを見直し、最短距離とすることで植栽の途切れを無くしました。陣屋坂を歩くどの角度からも、擁壁の存在感ではなく厚みのある豊かな緑を楽しめる散策路として整備します。



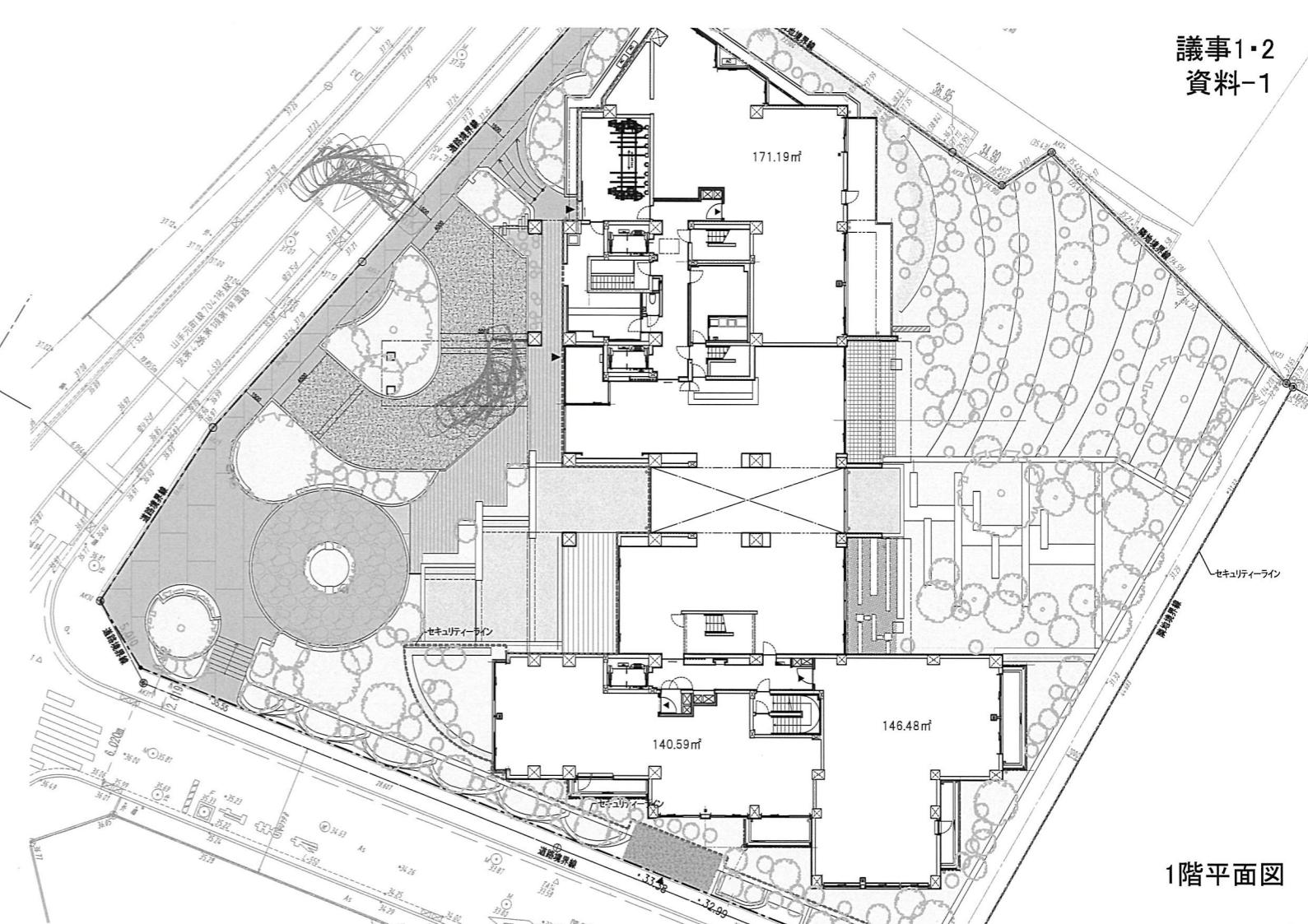
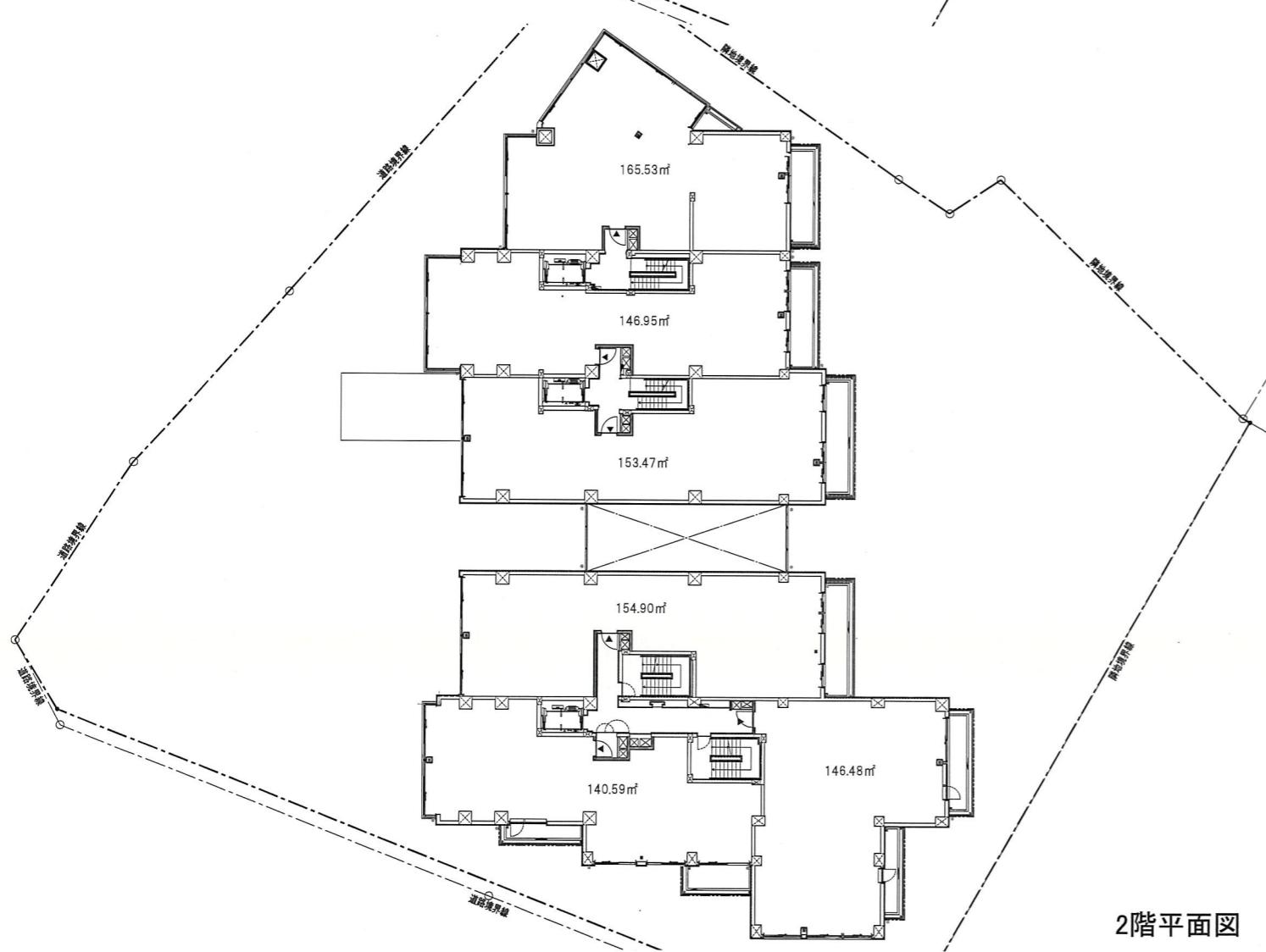
景観形成の計画



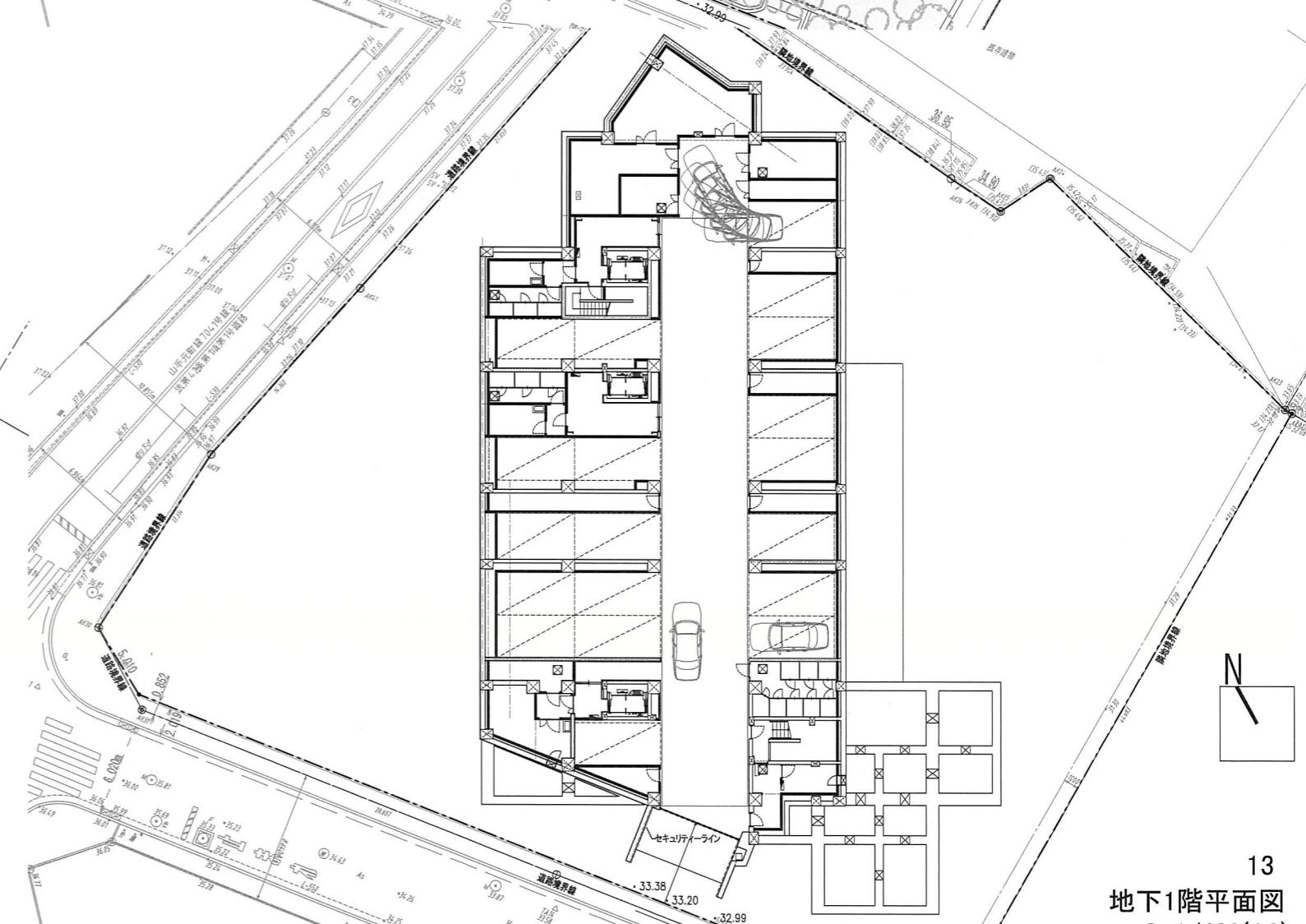
3階平面図



2階平面図



1階平面図



## ■前回都市美での意見：

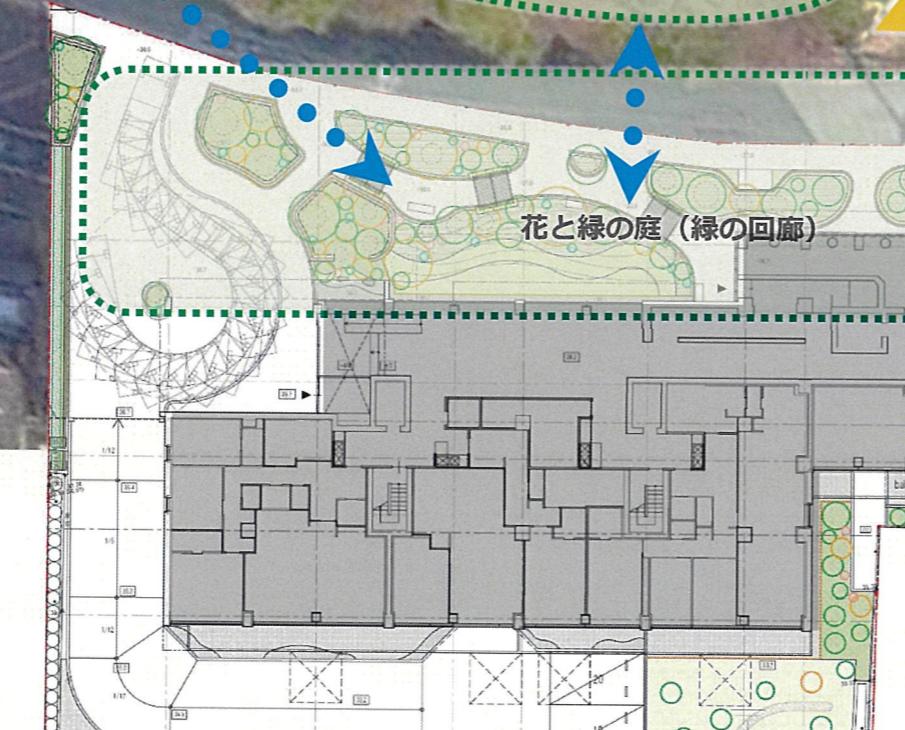
- ・前面歩道から敷地内への入りやすさを高める工夫を検討する事。
- ・長大な立面の印象を和らげるために、分節の工夫を検討する事。
- ・隣地側（C 敷地側）からの見え方として、車路や建物での高さの印象が過大とならないようにすること。



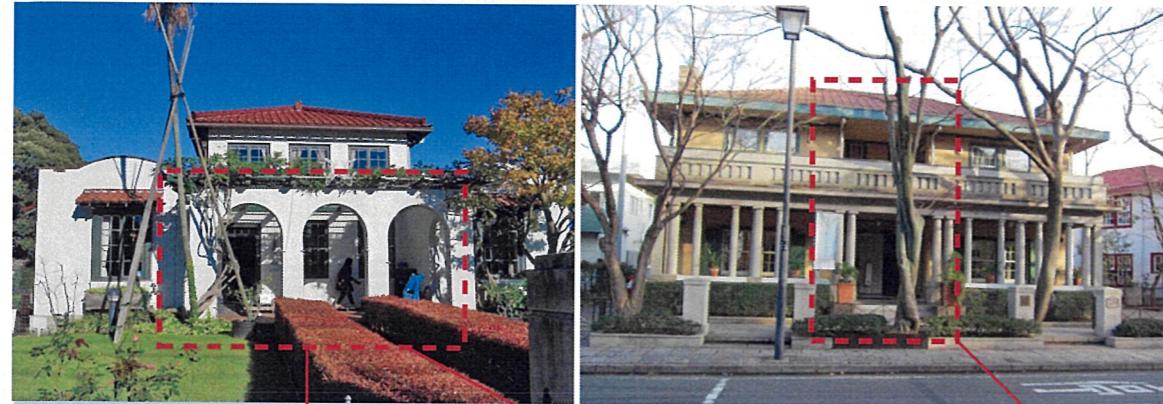
これまで公園に隣接する空間でしかなかった場所をセミパブリックな空間として整備・開放し、四季を通して、豊かな花と緑を感じ触れ合うことができる庭を創出します。

## ■今回の変更点：

- ・親しみやすいスケール感をより高めるために、3つのゾーンで外観を分節しました。
- ・拡張した歩道と回廊との間にバス（通路）を追加し、入りやすさに配慮しました。
- ・隣地側斜面に目隠し植栽や、屋上緑化等を施し、3層以内に見えるように工夫しました。

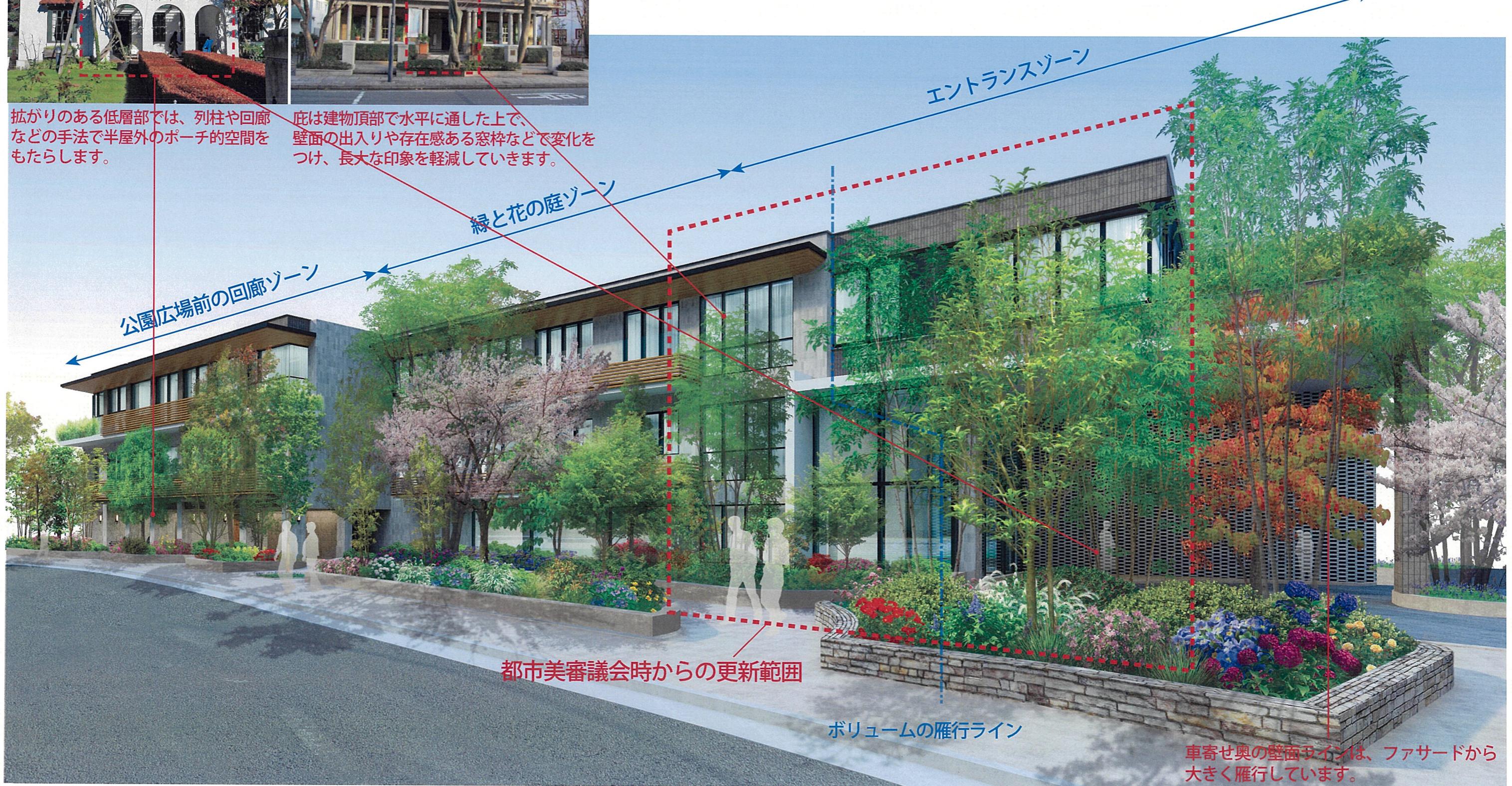


比較的大規模なタイプの山手洋館を参照します。



拡がりのある低層部では、列柱や回廊などの手法で半屋外のポーチ的空間をもたらします。

庇は建物頂部で水平に通した上で、壁面の出入りや存在感ある窓枠などで変化をつけ、長大な印象を軽減していきます。



■建物を雁行させることにより、建物を分節し長大な存在感を抑えます。

→効果：山手エリアの文化となっている、邸宅のスケール感を守ります。外構や建物デザインのゾーン分けを行っています

■B 敷地では、向かい合う「港の見える丘公園」内に立つ洋館の意匠性を尊重します。デザインコードを抽出し、現代のセンスに解釈して建物外観に取り入れます。

■緑に包まれる低層部と、最上階で素材などを切り替え、スケール感を水平方向、高さ方向とも親しみやすくします。ファサード側には建築緑化を実施し、平面だけでなく立体的に植栽を展開します。

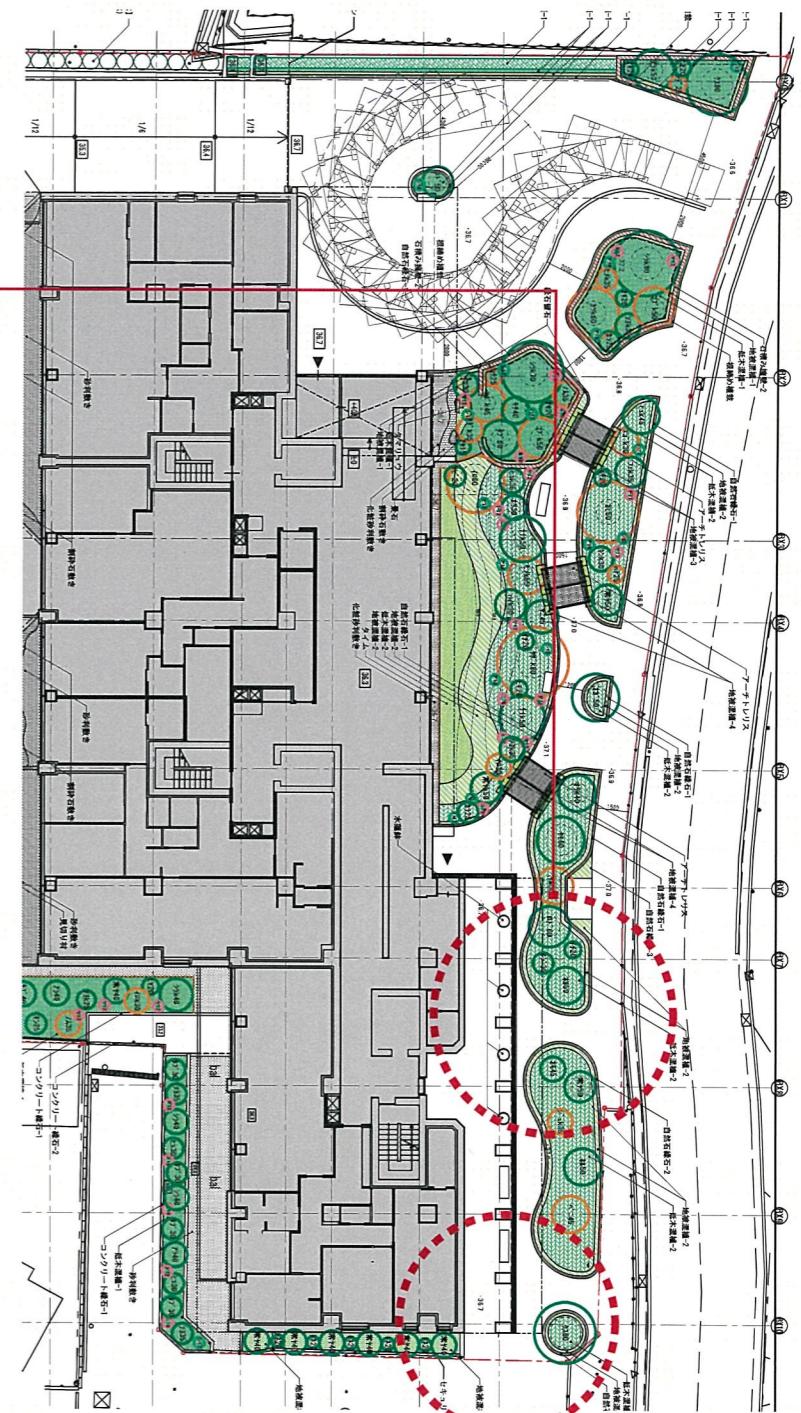
前回都市美時の案



今回の更新案



■変更点：拡張した歩道と回廊との間にパス（通路）を追加し、入りやすい回遊性や動線の多様さ、気軽に配慮しました。



隣接する山手洋館の特徴を抽出



イギリス館前の大木立



噴水広場



建築緑化 半屋外のアルコープ

濃色の窓枠 白系の明るい  
外壁色

B 敷地

前回都市美時の案

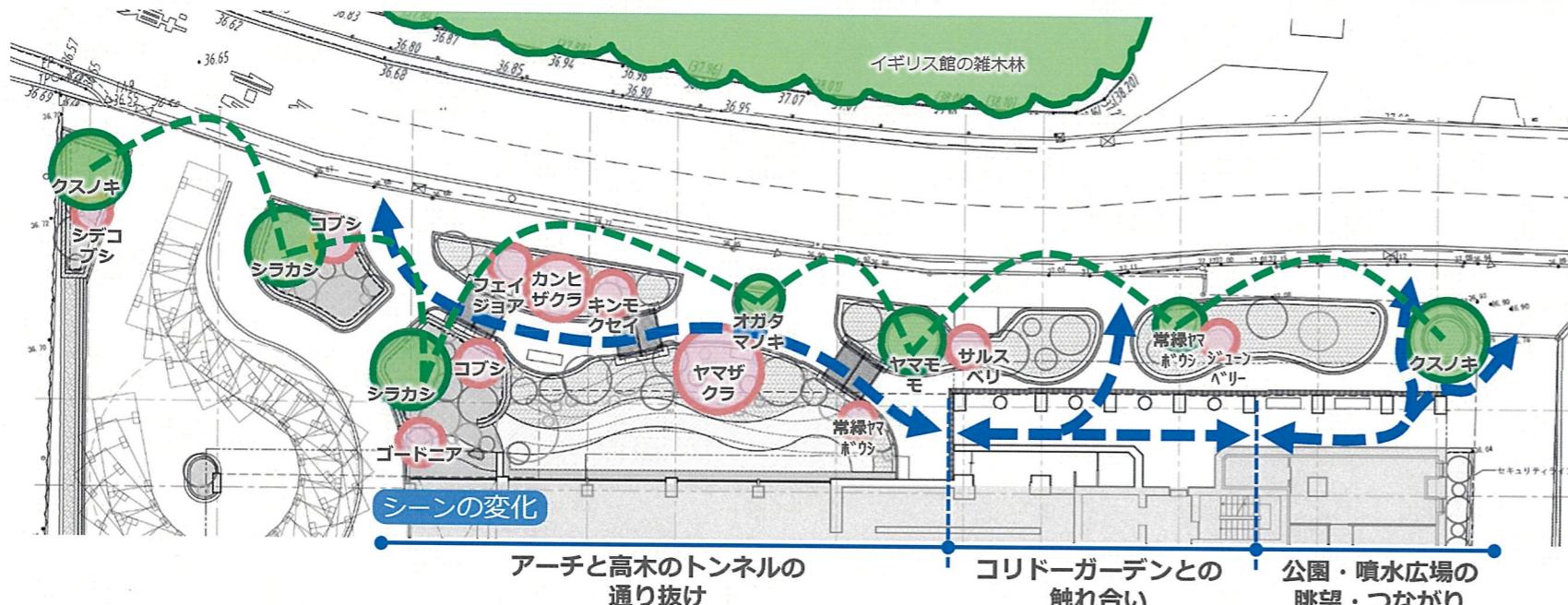


今回の更新案



## 景観形成の方針 植栽計画

## 高木植栽



**沿道の緑** 常緑高木を一定の間隔で配植することで沿道に対して緑のリズムをつくり、公園側の緑豊かなイギリス館の雑木林とともに、快適な沿道空間を創出します。



**花木のリレー** 花の咲く樹木を敷地全体に植えて、低木・草本とともに花と緑の庭をつくります。各季節を彩る花木による花のリレーを展開します。

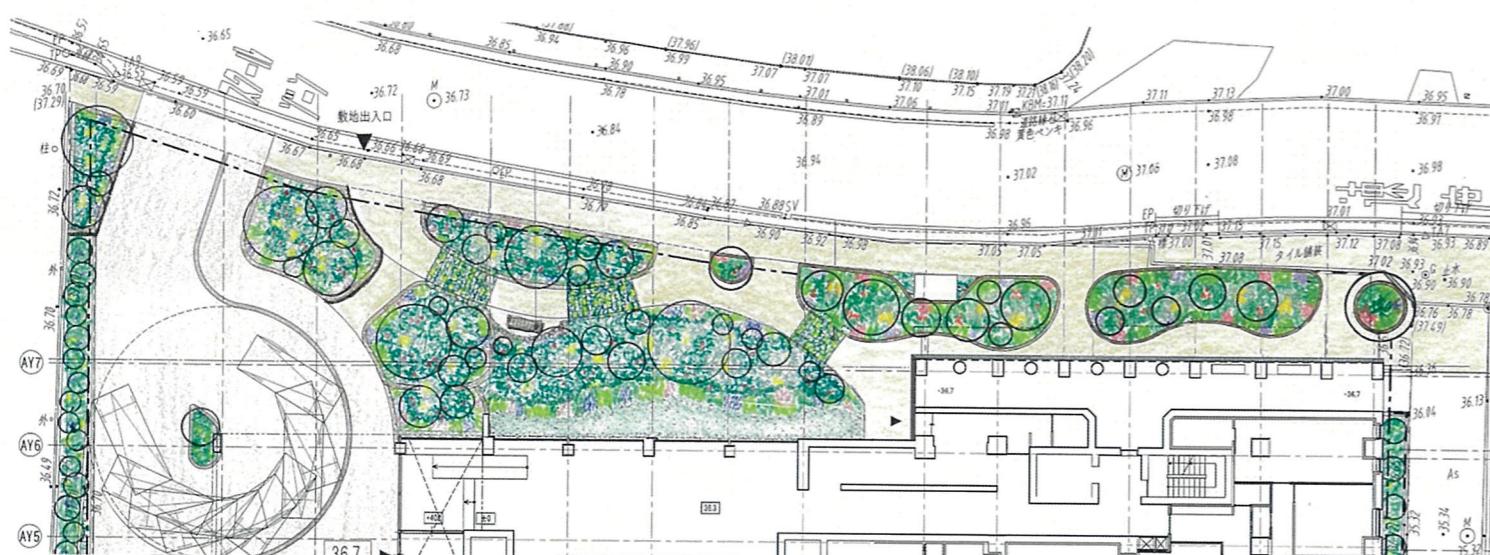


※主要高木

## 低木・地被植栽

港の見える丘公園の緑とのネットワークを結ぶことを目的として、「イングリッシュローズ」「四季の彩り」をキーワードにバラや季節を彩る草花を植栽します。

またマンションの庭として、1年を通した緑の景とメンテナンスの視点から、常緑性の低木・地被との混植やメンテナンスを考慮した植栽とします。



冬 12~2月開花



夏 6~8月開花



春 3~5月開花



アーチ



修景バラ

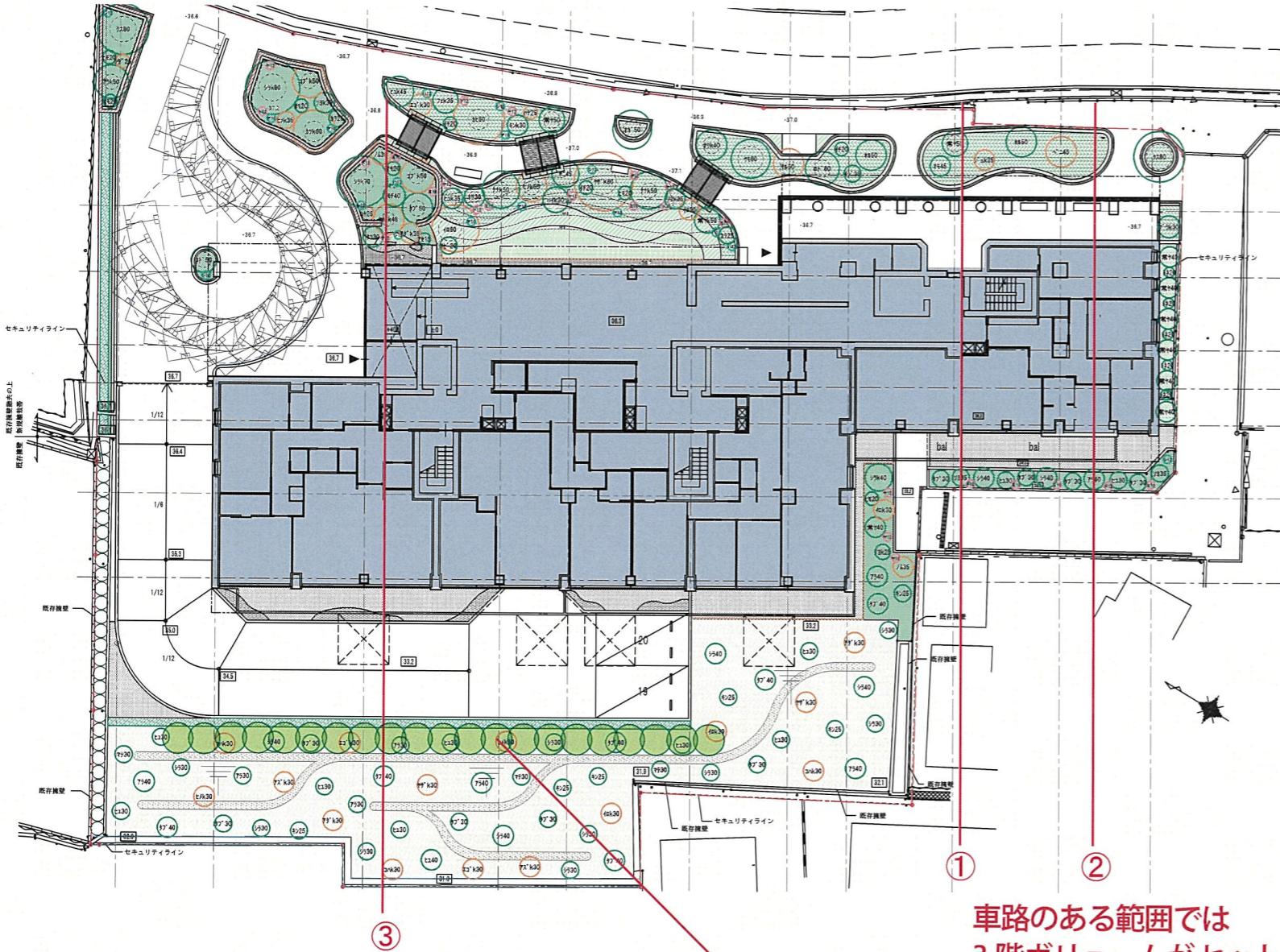


アクセントグリーン

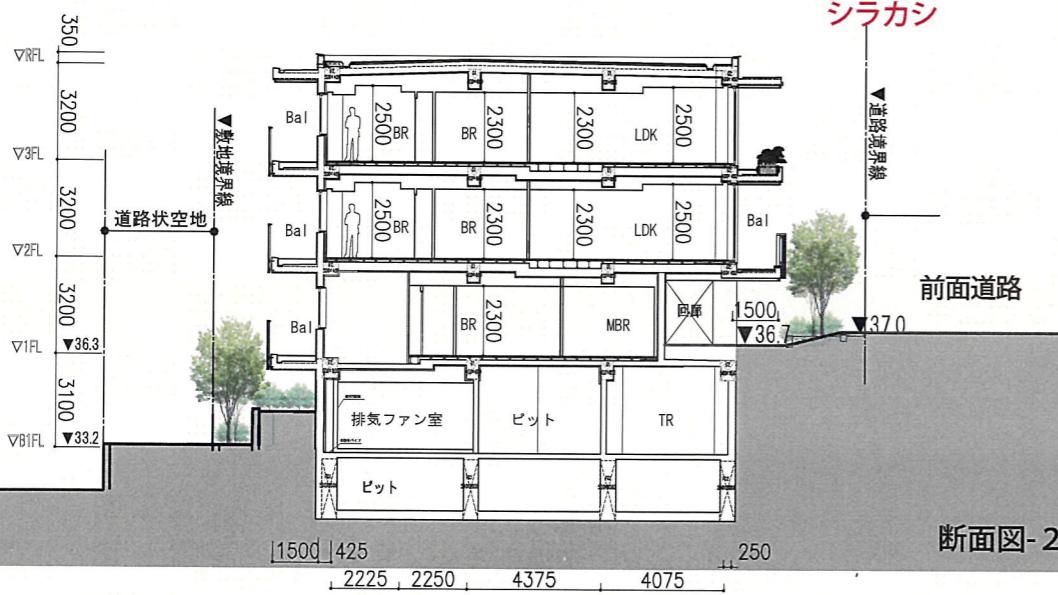


## ■変更点：

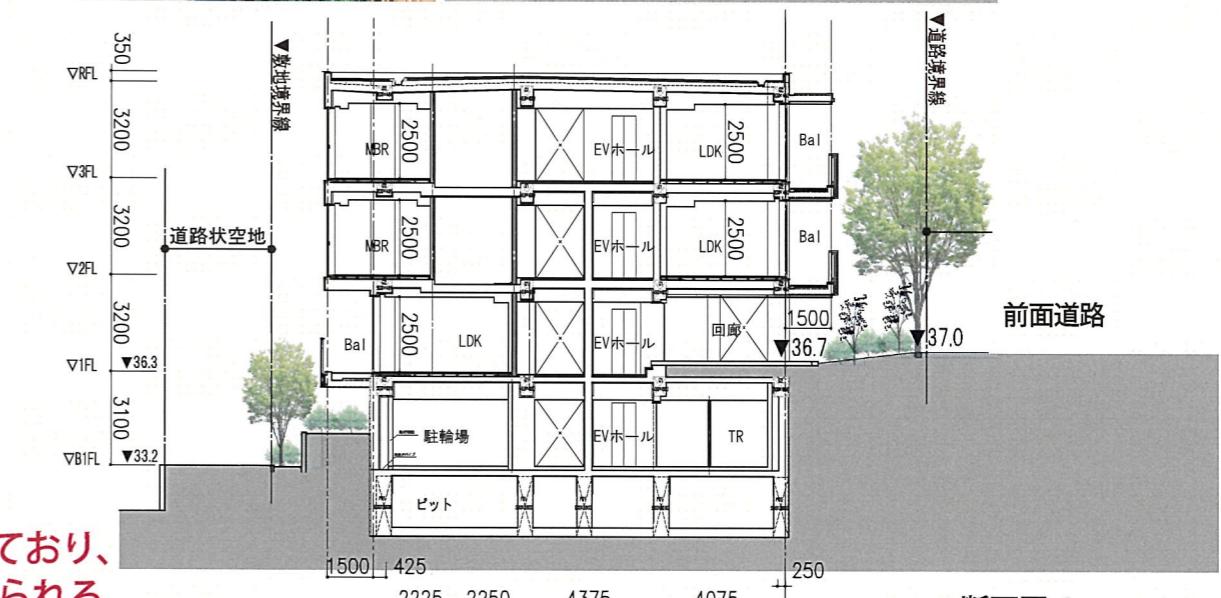
隣地側（斜面）側からの実際の視点においても3層（高さ10m）以内に感じられるよう、車路の前に植栽を列植するなどの工夫を強化しました。

目隠し生垣：  
シラカシ

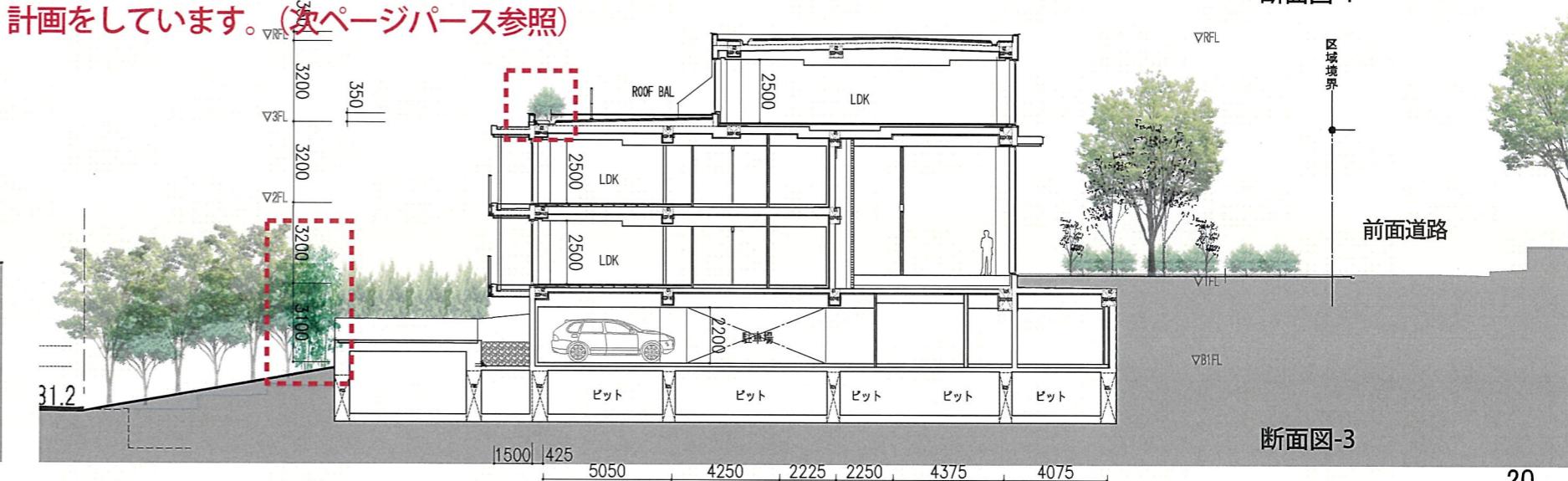
車路のある範囲では  
3階ボリュームがセットバックしており、  
屋上緑化の効果と併せ低層に感じられる  
計画をしています。（次ページパス参照）



断面図-2

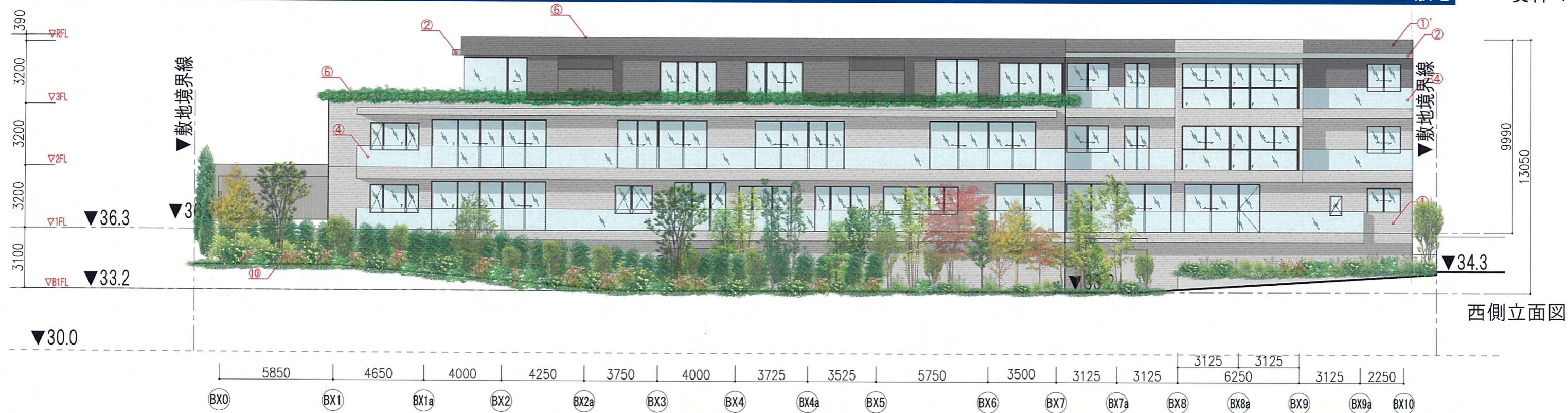
屋上部 緑化：  
ハマヒサカキ・  
ボックスウッド地上部 目隠し生垣：  
シラカシ

断面図-1



断面図-3

景観形成の方針 全体配置図と手法



C 敷地内駐車場から B 敷地建物を望む

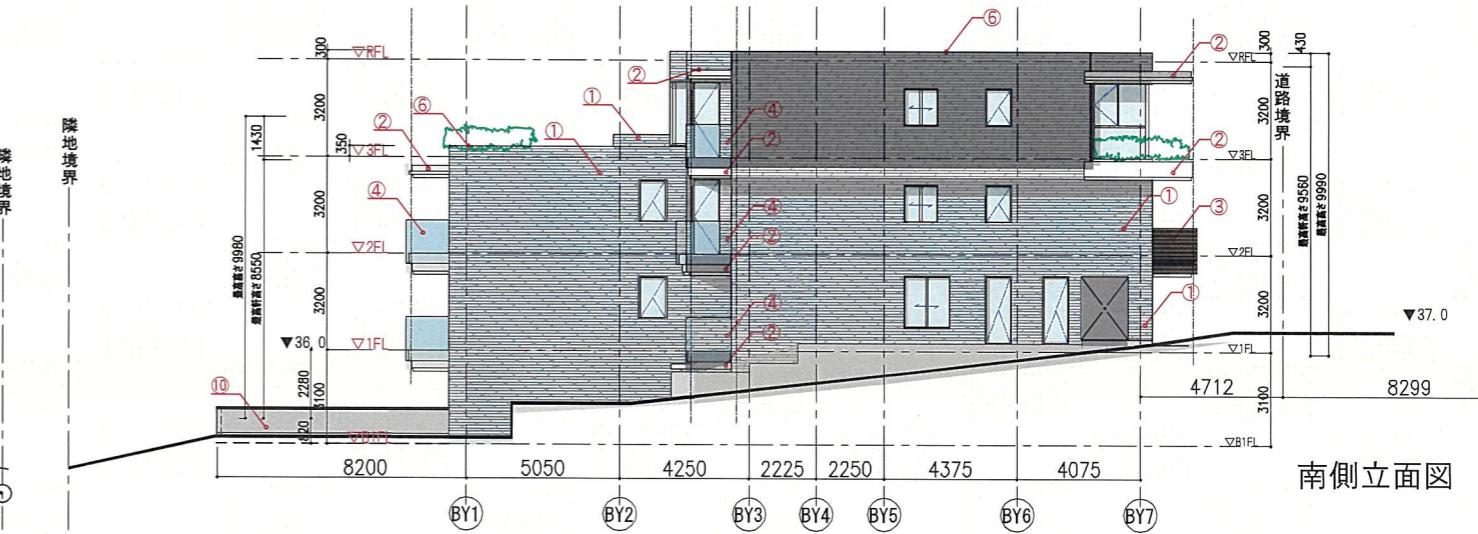
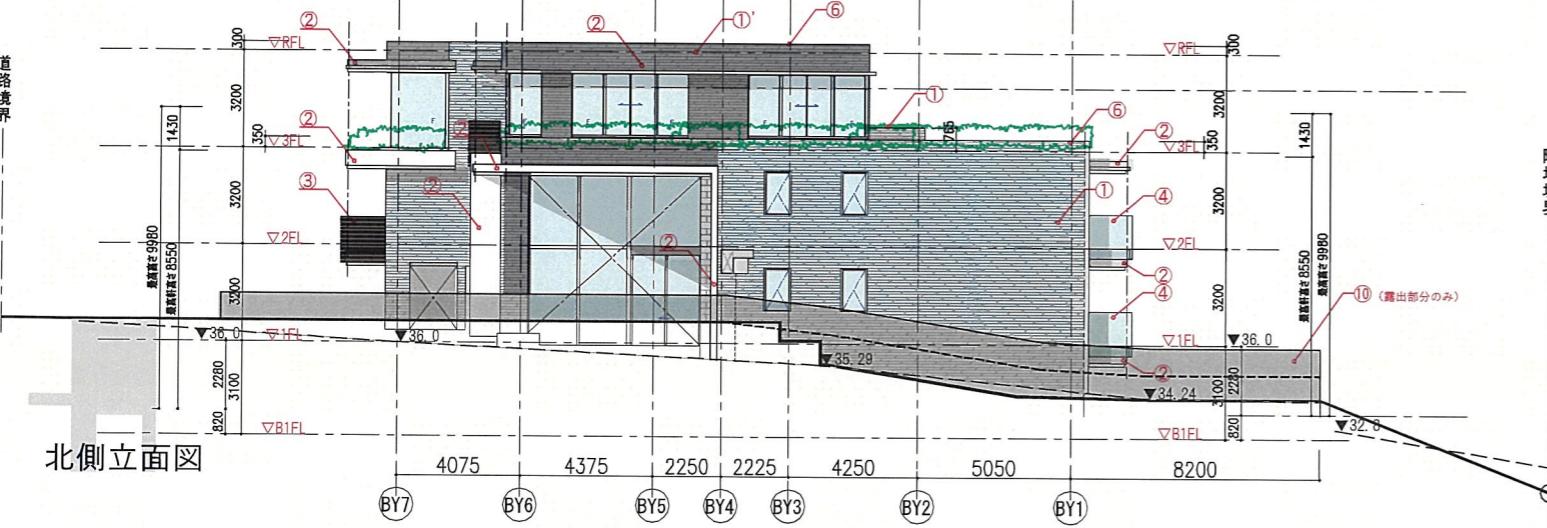
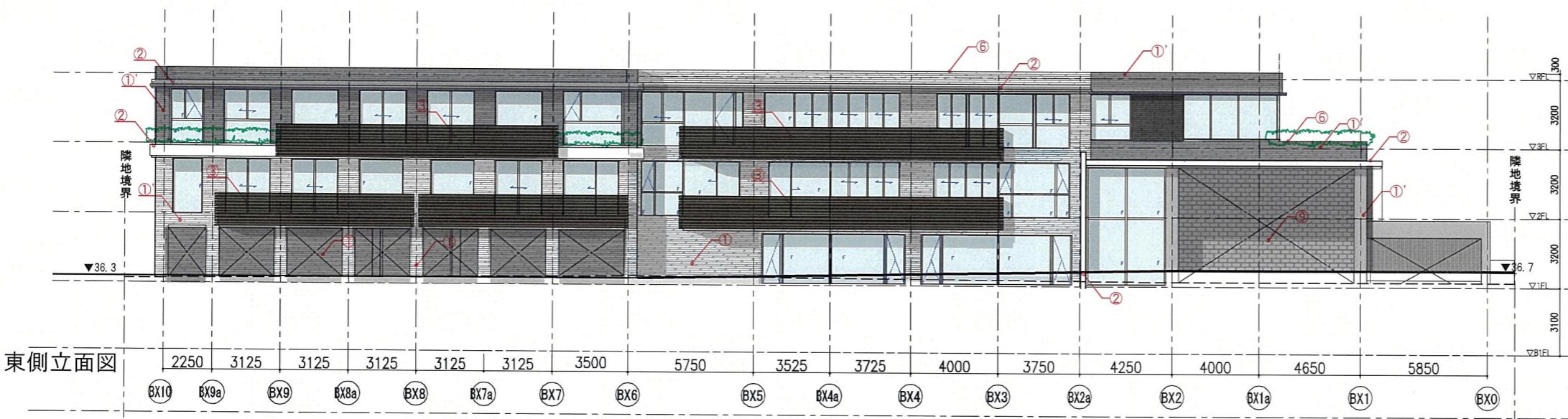


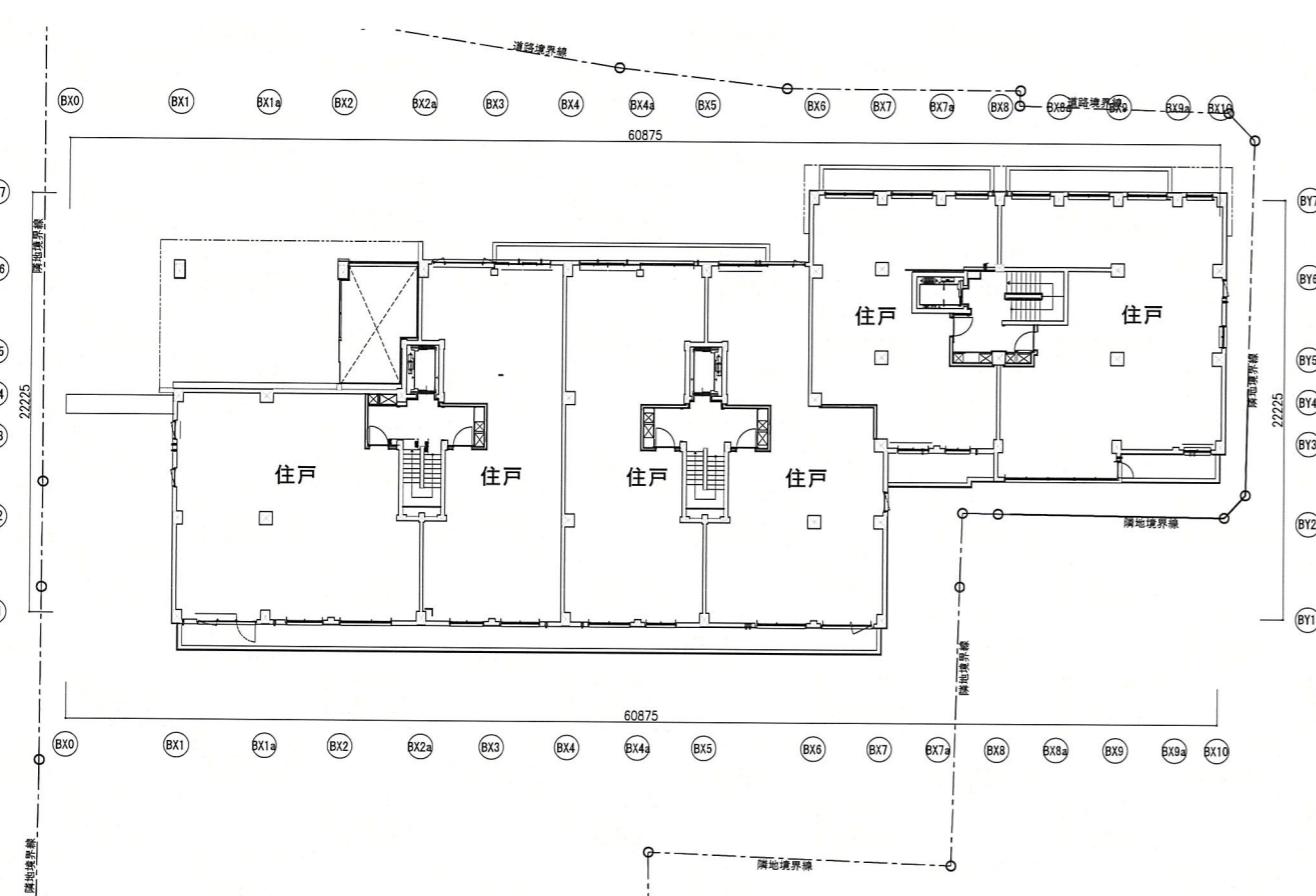
西側（陣屋坂）の道路から、C 敷地ゲート越しに B 敷地建物を望む

隣地側（斜面）側からの実際の視点においても3層（高さ10m）以内に感じられるよう、車路の前に植栽を列植するなどの工夫を強化しました。東側前面道路エリア、西側隣地エリア等の様々な視点から、景観上圧迫感の少ない3層に見えるよう、植栽及びボリューム操作を行っています。

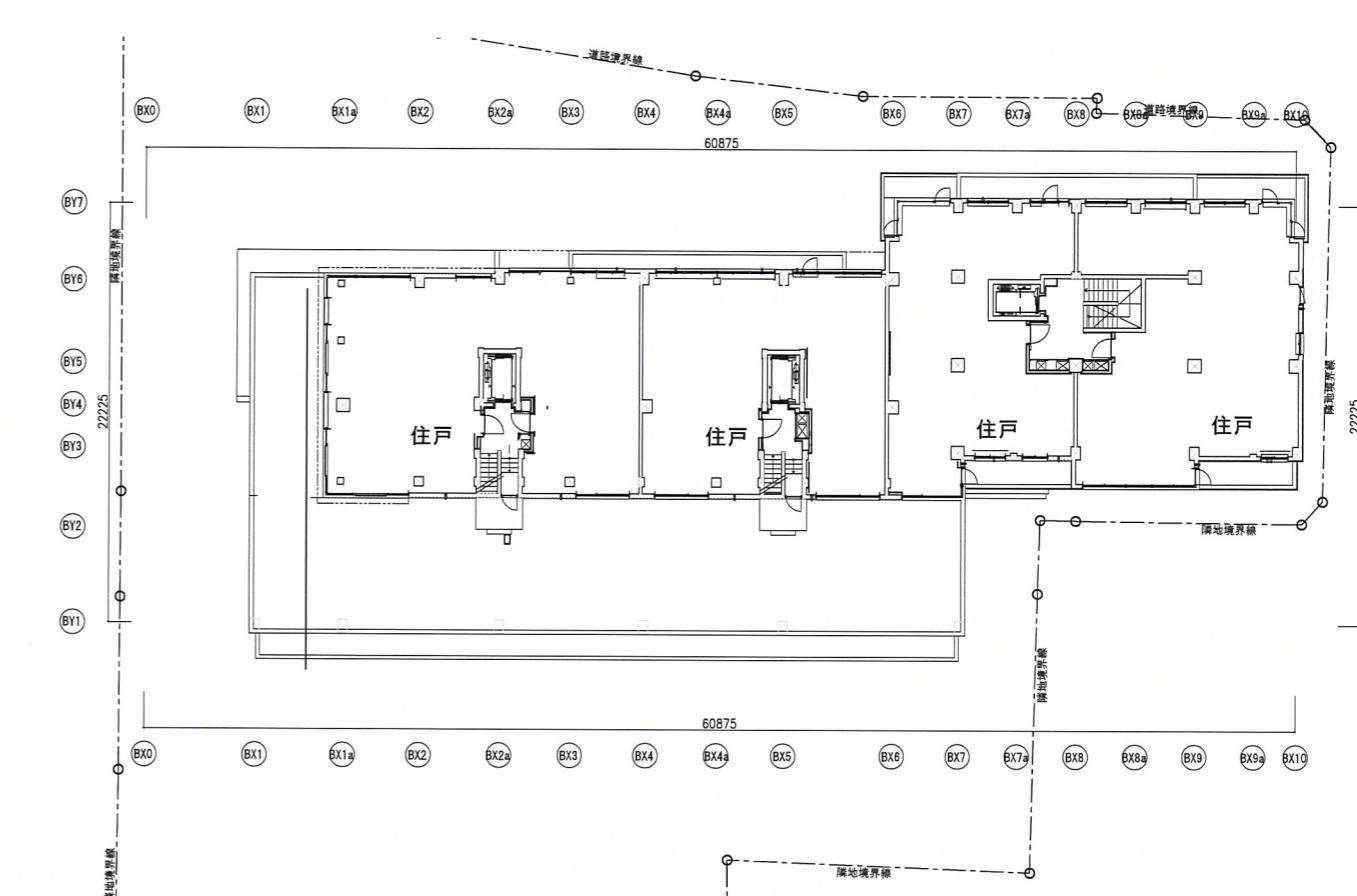


- ① 石器質無釉タイル貼
- ② 左官調塗装
- ③ アルミ横桟ルーバー手摺
- ④ ガラス手摺
- ⑤ ガラス手摺
- ⑥ アルミ笠木
- ⑦ メッシュフェンスH1800
- ⑧ アイアンフェンスH1000
- ⑨ レンガブロック 透かし積み
- ⑩ RC本実木目化粧打ち放し

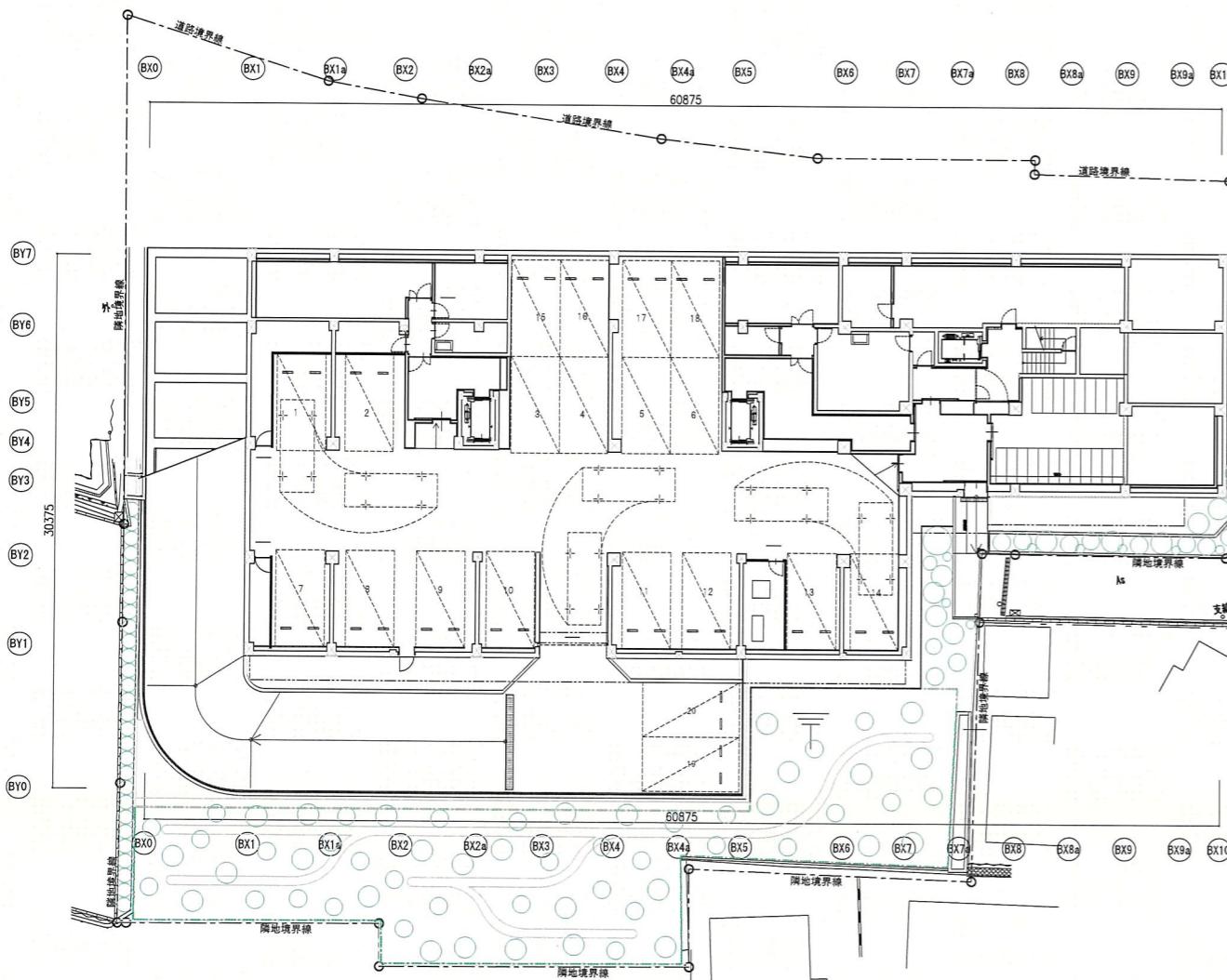




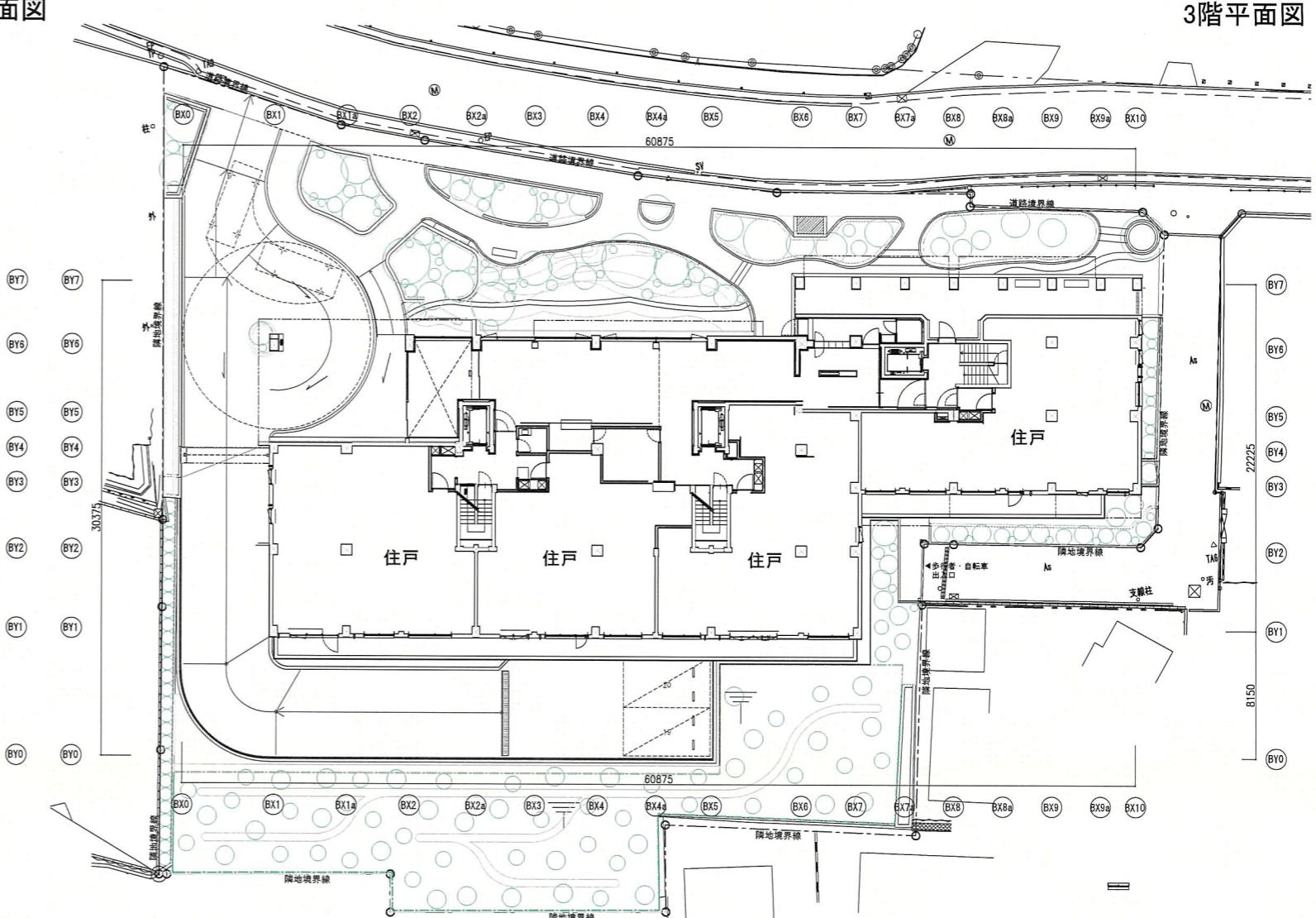
2階平面図



3階平面図



B1階平面図



1階平面図

## 前回の審議会をふまえた事業者との調整事項

(前回：第 69 回横浜市都市美対策審議会景観審査部会 令和 4 年 11 月 22 日)

前回の都市美対策審議会景観審査部会を踏まえて、以下の項目について協議・調整を行ってきましたので、次のとおり市の考え方を示します。

### 1 A 敷地 山手本通り側の空地のつくりについて

前回の提案では、建築物に近い部分に一般の歩行者が通り抜けられる動線を設けていましたが、一般的歩行者には入りづらくここを通ることはないとのご指摘を受けました。今回は、歩行者動線を敷地内に誘導するのではなく、山手本通りの歩道沿いに空地を設け、歩行空間にゆとりをもたせる計画としています。また、居住者向けの空間に見えるとのご指摘を受けました交差点付近の空地では、舗装やベンチなどの設えを工夫することにより、一般の人が入りやすい広場状の空間としており、山手の景観への貢献がより明快な計画になっています。

### 2 A 敷地 陣屋坂沿いの擁壁及び建築物の圧迫感の軽減について

盛り土によって新たに造成する宅盤とその上の建築物による圧迫感を軽減するために、今回の計画では、宅盤の高さを当初の計画より全体的に 70cm 下げ、さらに、建築物の 3 階部分を一部セットバックさせています。さらに、C 敷地との取り合い部では擁壁下の植栽をより密に配置することで、緑豊かな街路空間を形成するとともに、擁壁の圧迫感をやわらげる工夫をしています。

### 3 B 敷地 建築物の分節について

B 敷地の建築物のボリューム感を軽減するために、今回の計画では、ひさしを設ける範囲や窓の形状を工夫したり、外壁の素材に変化をもたせたりすることで、港の見える丘公園側の通りに面するファサードを大きく 3 つに分節し、山手のスケール感になじむよう配慮しています。また、ファサードのデザインには、山手の西洋館の要素を取り入れる工夫もなされています。

### 4 B 敷地 港の見える丘公園側の歩道に面する空地へのアクセスのしやすさについて

前回の提案では、港の見える丘公園側の歩道に面する空地について、一般の歩行者がより入りやすくなるような工夫を求められました。今回の計画では、植栽帯の形状等を見直し、空地にアクセスできる部分を増やしています。

### 5 B 敷地 C 敷地側からの見え方について

地下駐車場へ続く車路の隣地からの見え方について、今回の計画では、車路の側面に沿ってより密に植栽を配置し、車路の側面が隣地から見えにくくなるよう配慮をしています。